

PART 2

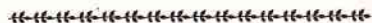


創造の

泉

Table of contents or index page with multiple columns of text, including chapter titles and page numbers.

- 10TH 未来の網走/武田俊夫.....170
- 10TH 数物デザイン/堀北淑子.....171
- 11TH デザイン(色と形)/青山清輝.....172
- 11TH 飾るデザイン(構成)/東志隆.....171
- 12TH 町を作ろう(共同製作)/村山佳成.....174
- 12TH 働く(ま)絵・共同/服部幸男.....175
- 13TH トーテムホール/吉田敏之.....176
- 13TH 素描/板垣玲子.....177
- 14TH 街で見てきたところ/佐藤圭.....178
- 14TH 白と黒による平面の分割/佐野千尋...179
- 15TH 野外彫刻/木立博康.....180
- 15TH じょうぶな組み立て/藤井常雄.....181
- 16TH 港で見てきたところ(共同製作)/
片平浩史.....182
- 16TH ポスターをデザインしよう/青野昌勝183
- 指導の構築授業、月にむかってとぶ鳥の群れ
/金井秀男.....184
- 17TH デスクアクセサリ- /越田喜忠.....188
- 17TH くわがたのすもう(版画)/内潟光尚...190
- 18TH 虫のえんそく(デザイン)/船着昭弘...191
- 18TH かみのいえ/伊藤恵.....192
- 19TH おうまにのったおうさま/遠藤久雄...193
- 19TH いれもののデザイン/加藤五十和...194
- 19TH 童話の表現/菅原稜三.....195
- 19TH ふしぎな花/朝倉るみ子.....196
- 20TH 黒い紙との対話/築山尚明.....197
- 20TH 笛をふく人/高橋ミチ.....198
- 22TH 森の詩/中谷有逸.....199
- 22TH 月の夜/佐藤光雄.....200
- 23TH タンポポになって/本多正機.....203
- 23TH 牛/山宮喬.....205
- 24TH 土のすず/横田勇吉.....206
- 24TH
- 25TH おもしろい魚の絵はがき/網淵敏幸...208
- 25TH 両手の見え /ポーズ/手島圭三郎...210
- 26TH マジックカード/正岡辰郎.....212
- 26TH 紙でつくる/加藤勉.....213



創造の泉

その1

ここに第10回からの授業案を集録した。残念なことに、それ以前の資料が第1回から完全なものとしてなかったもので、ついに第10回以降のものとなってしまった。

しかし、ここに集録された授業案から少し時代の大会を想起できるに充分なものであるばかりではなく、造形教育思潮の流れとそれをうけとめた教師の息使いが聞こえてくるものを記録した。



- 27TH さかなになろう/芝木捷子.....214
- 27TH うごくおもちゃをつくる/長津喜代...215
- 27TH 春の歌/日高晴美.....216
- 27TH 回転して動く/山本金次郎.....217
- 27TH 石の中に顔を彫る/香取正人.....219
- 27TH 土笛をつくる/多田絃一.....221
- 27TH ロボットを作ろう/芝木秀昭.....222
- 28TH 物語の絵/石垣由美子.....223
- 28TH 物語の絵/角谷聖子.....225
- 29TH 米づくりの道具/原良三.....227
- 29TH 中原悌二郎の作品にふれる一
島本捷夫.....229

第10回網走大会 (昭和34年)
数物デザイン

網走市立第一中学校第1学年
 男29名 女26名 計55名
 指導者 堀北淑子

1. 題材設定の理由

- 小学校との関連性によって中学校においても、創造教育の一分野としてデザイン指導を継継し、生徒のデザインに対する一般的な表現能力を高めさせたい。又生徒のよい構想や豊富な夢を、一つの作品の上にもたせ生活を合理的にしたり環境を美化する能力を養わせていきたい。
- 個人製作の段階から共同製作に進め、個人では発揮出来ない喜びを味わせると共に協力することの社会的意義を体得させたい。
- 郷土の歴史を学習活動の中に取り入れ先住民族の文化にあらわれた模様をデザイン学習の中に生かした新しい形態で興味をもたせながら技能を身につけさせたい。

2. 目標

- (1) 機能的なデザインを理解する。
- (2) 実生活に役立つ数物のデザインを学習する。
- (3) 先住民族の遺した模様を新しい感覚のもとに応用させる能力を養う。
- (4) 共同製作の作品に対する鑑賞力を深め生活とデザイン学習の結びつきについて理解させる。

3. 指導計画

- (1) 日常生活されている数物について調べ、話し合いによってその機能とデザインの関係を理解する 1時間
- (2) 先住民族の遺した模様を美しく取り入れられるように工夫し機能に即した美しいデザインをする。(個人製作による作品製作) 2時間
- (3) 作品製作 (共同製作)
 - A. 前時に製作した個々の作品を持ち寄りグループに於いて作品の検討をし、共同製作に対する計画を立て下図製作をする 1時間
 - B. 着色 (仕上げ) 1時間 (本時)
- (4) 製作後の反省並びに作品鑑賞 1時間

4. 本時学習のねらい

- (1) 前時にデザインしたものを基にして着色にはいり色彩に対する感覚、共同製作の意識を高める。
- (2) 色々な表現法を理解させ機能に合致したデザイン学習を習得させる。
- (3) 共同製作に対する個性の生かし方について工夫させ創作する喜びを味わわせる。
- (4) デザインと色彩との調和について研究する。

5. 準備

製作用紙、画板、先住民族の資料、参考作品絵の具、その他。

6. 指導過程

過程	学習活動	着眼点	備考
5分	● 本時のめあてを決める各自の感覚、個性をどのようにまとめてゆくかグループごとに話し合う	● グループの話し合いにより本時の目的をはっきりさせる	● 共同製作に対する個性と興味との関係の進め方に注意する
50分	● 製作の計画を立てる、模様の取り入れ方と色との関係について十分考えながら着色にはいる	● 作業分担の確認を十分にさせる	● 共同のものを大切に扱う態度をつける
5分	● 製作結果の反省、計画通りに出来たか話し合う	● グループによる作品製作の雰囲気になれさせる	● 共同作業に対する参加のしかたに注意する

第10回網走大会 (昭和34年)
未来の網走

網走市立網走小学校第6学年
 男24名 女25名 計49名
 指導者 武田俊夫

1. 題材設定の理由

当市に生活している児童は、子供らしい感覚で網走市の発展を願っている。特に6年生にもなるとその関心が一層具体的になる。天然ガス、温泉のボーリング、テレビ塔、水族館、熱帯植物園、港、工場、新しい建築等は、いつも児童の話題の中心である。
 この期に網走市現在の姿を造形活動を通して認識させ未来を夢みる児童の意欲のはげぐちとして、製作活動に発展させたい。その過程で現在児童にかけている立体構成工作的デザインの経験をさせ創造的実践的な活動をさせたい。

2. 目標

- (1) 児童の夢を実現させたい (創造の喜びをもつ)
- (2) 現在の網走市をよく観察し理解させ、未来の市の設計にあたる。
- (3) 長期間 (課外活動を含めて) にわたる製作活動を通じて、共同製作の意義を見出させ、その態度を養いたい。
- (4) 紙彫刻のいろいろな表現技法や線材の立体構成など総合的な応用の理解を深める。
- (5) デザイン的取扱いから、ハーモニー、バランス、コントラスト等の美的構成の秩序を発見させたい。
- (6) 今まで学習した平面構成のデザインから、立体構成のデザインへと発展させたい。

3. 指導計画

- (1) 現在の網走市のパノラマを作ろう (8時)
 - 網走市の観光資源の調査 2時 (課外活動グループ毎に)
 - 烏かん図の作成 2時
 - パノラマ作り 4時 (課外2時間)
- (2) 未来の網走市のパノラマを作ろう (13時)
 - 未来の市の想像画をかく 2時
 - 建築物一本にしぼってその立体構成に入る (試作) 5時 (課外3時)
 - 前学習を参考にしてグループ毎に製作 5時 (課外2時)
 - 完成させる
 - 作品を配置してデザイン的構成美を作り出す 1時 (本時)
 - 完成について話し合う

4. 本時学習のねらい

- 美的構成要素に関する理解。
- 協同製作に対する心がまえと効果を知る。
- 未来の網走市に対する児童の夢を立体構成を通して実現させる。
- 建築デザインのアウトラインにふれさせたい。
- 完成の喜びを味わう。

5. 準備

(児童) 製作中の作品、接着ざい、ハサミ。
 (教師) 配置図、黒布、参考作品、スポットライト。

6. 指導過程

過程	学習活動	着眼点	備考
5分	(1) 本時のめあてについて ● 仕上げの心構え ● デザインについて ● 配置について	雰囲気になれさせる 本時のめあてをはっきりさせる	
45分	(2) 製作 ● グループ製作 ● 接着ざいと組立て (3) 完成 ● 完成作品を持ち寄りその名称を発表 (4) 配置機能 (美的) ● 組合せの工夫 (機能的に) ● 配置する (美的に) (5) 完成の話し合い ● 自分達の工夫したこと注意したことについて話し合う ● 協力しあって出来た喜びを話し合う ● 未来の市に対する夢を話し合う (作品を通して) ● 今後の発展について	協同製作の成果を知らせる 接着ざいをなるべく使用しない工夫 美しい形で仕上げるように注意	デザインの配置を考える (バランス、ハーモニー、コントラスト) 自分達グループの考え通り進化したか 今後の製作に意欲的になるように

第11回滝川大会 (昭和35年)

飾るデザイン(構成)

滝川市立江陵中学校1年生
指導者 東 志 隆

1. なぜ、この主題をえらんだのか

私たちは中学校生活の中で、自主的な実践的な人間づくりをしたいと願っております。そのあらわれとして生徒は、楽しみつつ自ら考え、計画し、創りあげることによって生活をより前進させようとする動きをしめして来ております。造形科の創り出すよるごびは、この生活を築く活動の中でおもてにあらわれたものとして表やグラフィックの掲示などに好ましい状況をみせております。この時期にあって表示や、飾るためのデザインをとりあげさせることは生徒の欲求を満足させるものであり、確かな自主性を育てることにもなります。

更には、この機会に形や色に対する感覚や、地肌などの感覚をより鋭いものにさせ、構成原理の理解にもふれさせることは、造形美のきびしさにも触れさせることになり、いっそう興味と関心をよせるだろうと考えます。

2. ねらいはなにか

- 構成のプリンシプルを感覚的にするどくとらえさせたい。
- 造形上の要素を総合的に構成させたい。
- 作る中で考え、考える中で作られていく楽しみをもたせたい。
- 彫塑や絵画などの他領域に発展的に侵透し、生きたものとさせたい。

3. 学習の順序は

- 色と形のはたらき..... 2時間
- 地肌(テクスチャー)のはたらき..... 2時間
- 飾るデザイン(レリーナ)..... 本時4 / 2..... 4時間

4. この時間のはこびは

ねらい	順序	生徒の活動	指導のてだて	用具と材料
● 線や面のはたらき、色彩、形のはたらき地肌のはたらき等考えて構成していきう。 ● 統一と変化調和・均衡リズム、方向性など考えよう。 ● 材料と加工構成にたえず独創性をもちよう。 ● 飾るデザインとしての目的を失わぬようしよう。 ● 工夫の中に楽しさのあふれる活動をすすめよう。 ● 反省によつてよいものを生み出すようしよう。	導入 10分	● 用具用材を全部そろえる。 ● 何を制作するのか目的を確する。 ● 前時までの流れについておもしろい起し、この時間のねらいを把握する。	● 用具用材の足りないものはないか確認。 ● 目的意識をはっきりと確認。 ● 制作にあたっての構成原理や造形要素について再確認する。	紙 布
	展開 40分	● 制作にとりかかる。 ● スケッチとあわせながらすすめるが不合理なところは改めながらいく。 ● 構成について絶えず考えながらすすめる。 ● 独創性をはたかせるようにすすめる。 ● 制作品を互にみせあう。	● 制作について注意しあうことを予め話す。 ● 机間を巡り制作のアドバイスをする。 ● 制作途次の作品の中から工夫されたものや、アイデアのすぐれたものをとりあげて賞揚し全体の表現意欲をより高いものとする。	玄 能 絵 具
	まとめ 10分	● 作品についての反省をもつ。 ● 自己反省録に記入する。 ● 次時の見通しをもつ。	● 自己反省記録を書いてこの時間のまとめとさせる。 ● 1、3のよい作品を紹介する。 ● 次時の見通しを話す。	

第11回滝川大会 (昭和35年)

デザイン(色と形)

滝川市立滝川第1小学校6年生
指導者 青 山 清 輝

1. なぜ、この主題をえらんだのか

子どもたちは何んでも知りたいしてみたいという旺盛な知識欲と活動をひめて、新しいものの中にたえず変化を求めて日々を生活しています。

造形活動にもこのようなエネルギーを十分に発散させ、より美しいものに対する感覚を鋭敏にし、表現活動を通して創造力を豊かにさせていくことが必要なことだと思ふのです。

そのためには、色や形の基本的な感覚訓練から美の原理についての理解を深め、これまでの表現技法や造形に対する考え方を一段と高かめなければならない時期になっています。

そこで造形的な原理をひとつ、ひとつたしかにしていくこととともに総合的な表現として子どもの生活に定着させたいのです。その意味からいっても夏休み計画表のデザインは時期的、目的的からいって有意義なものと考えたのです。

2. ねらいは何か

- 色や形のリズムをつかむ(形一直線曲線、寒色、暖色、補色一色)
- 効果的な配色と配置を考える(バランス、調和、変化統一)
- 形や色の方向性と関連性を発見させる。
- 彩度の美しさをつかむ(純色と白や黒をまぜた色)
- ちがった材質の組みあわせの美しさを発見させる。
- 装飾文字を考えさせる。

以上のことを練習や自由なデザインを役につたデザインに発展させる学習形体の中で色々な材料経験や技法の工夫を通して造形原理の理解を深めたいのです。

3. 学習の順序は

- れんぞくもようの中から色や形のリズムをつかもう。..... 4時間
- 定規やコンパスでかいたもようの中から色々な形を発見し彩色してネクタイのデザインをしよう。..... 4時間
- はりえと装飾文字と夏休みの計画表を組みあわせて夏休みの計画表のデザインをしよう。..... 本時4 / 2..... 3時間

4. この時間のはこびは

ねらい	順序	子どもの活動	指導のてだて	用具と材料
● デザインの必要性についての理解をさせたい。 ● 形や色、材料のもつ色々ななほだあいなどを自由に構成することのできる楽しさをとらえさせたい。	導入	● 話し合い。 1. 夏休みの計画表のデザインについて。 2. はりえについて。 3. はりえと計画表文字を台紙に構成することについて。	● 自由な気持ちで作業できる状態にさせたい。 ● 用具の整理や使い方からくる危険防止をさせる。	は さ み の り か た ば も の さ し は 定 規 色 紙 布 切 れ も ラ シ ヤ 紙 画 用 紙
	展開	● 作業過程。 1. 画用紙に色々な材料をきつたりやぶいたりして、はりつけていく。 2. その形体より生まれる形を具象物にはりあげていく。 3. 台紙にするラシヤ紙をえらぶ。	◎ 机間巡視をしながら ● 形や色の変化にきをつけてはるようさせたい。 ● 画面構成、色の調和、形のリズムについての助言をする。 ● 具象物が連想できない子はそのまま進める。	夏 休 み 計 画 表
	まとめ	1. 夏休みの計画表とはりえと装飾文字をどう台紙の上にはりつけると美しく見えるか色々配置を考えて一番よいと思われる所にのりではる。	● 子どもたちの気づかないような配置のしかたを見せてどんな配置をしてもよいことに気づかせる。 ● 次の時間に作品の話し合いをする。	

第12回名寄大会 (昭和37年)

共同製作働く人(はり絵による壁画)

名寄市立名寄東中学校 2年
男25名 女23名
指導者 服部 幸男

1. この題材を選んだ理由

- 地味だが日々の仕事に喜びを感じ、真剣にとりくんでいる人——そのような人の姿には生きる力強い美しさがある。たんなる花鳥風月の美しさばかりでなく、周囲の生活に目を向けさせて深みのある美しさにも気づかせ、それらを表現する態度と能力を養い人間形成に資したい。
- 働く人の姿を表現する場合、働く人の身になって感動のこもった絵を描かなければならないが、日頃から自分の経験した仕事とか身近な人の働いているようすなどを各自の感じたことをもちより、共同で制作することの喜びを感じさせたい。

2. ねらいはなにか

- 働く人の美しさを理解し感じとる態度を養う。
- 働く人の姿の美しさを把握し、創造的に表現する能力や態度を養う。
- 各自の考え、感じ方などをだしあい共同で制作する喜びを感じる。
- いろいろな材料をつかって構成する能力を養う。

3. 学習の順序は

- 働く人の美しさなど感じた経験を話し合い、絵を鑑賞する。グループをつくり原画の構想をねる。 1時間
- 原画の一部を分担し下絵をかく。 1時間
- いろいろな材料を使って制作する。 3時間 (本時3 / 3)
- 作品を鑑賞し、共同制作について反省する。 1時間

4. この時間のあゆみ

- ねらい ● 全体の傾向とか調和を考えて制作する。
● 原画のイメージを生かしながら、創造的な作品になるよう工夫する。

順序	子どもの活動	指導のてだて	用具と材料
導入	● 分担制作してきた作品について反省し、手なおしの計画をたてる	● つなぎあわせた作品について話し合わせる ● 全体としての効果を考えるようにし、各自の分担が全体の中でのいかに生かされているかに関心をもたせるようにする	● はさみ ● のり ● 色紙 ● ひも ● 布
展開	● 分担した作品を手なおしする	● 画用紙16枚つなぎと25枚つなぎのグループ毎に原画の一部を分担し、色紙などをはり壁画をまとめさせる ● 全体傾向とか調和を考えながら制作させる ● 原画のイメージを生かしながら、創造的な作品になるよういろいろな材料を工夫しながらつかわせる	● 毛糸 ● ビニール ● テープ
まとめ	● 分担した作品をつなぎあわせる ● 作品について話し合う	● 作品をつなぎ全体をまとめさせる ● つなぎあわせた作品について意図した効果がでたかなどについて話し合わせる	

第12回名寄大会

町を作ろう(空箱を使った共同製作)

名寄市立名寄南小学校 3年
男21名 女20名
指導者 村山 佳成

1. この題材を選んだ理由

- この時期の児童の表現活動を考えてみると、それは遊びであり、また活生そのものだと思います。子どもたちは小さい時から物を積んだり、重ねたりして遊ぶことが好きです。積み木細工などはそれをよく現わしています。そこで立体を組み合わせて物を作るということの中に造形活動のよろこびを見出したいと思います。
- また造形活動はより新鮮で意欲的であればなりません。集団の中で一人の力がいくつかまとまると大きな力として現われるということに喜びと意欲をもたらせたいと思います。

2. ねらいはなにか

- 町の模型を作ることによって、児童が培ってきた空想内容をさらに豊かにし、創造力を発展させる。
- 共同で製作していくよろこびを味わわせる。
- 立体を組み合わせることで児童の空間感覚を養う。

3. 学習の順序は

- いろいろな空箱を使って、きれいな町を作ること話し合い計画を立てる。 1時間
- 建物を作り、並べて町を作る。 2時間
- 乗り物・立木などを作り並べる。できた町の模型を見て話し合う。 1時間 (本時)

4. この時間のあゆみ

- ねらい ● 児童の空想力の内容を豊かにする。
● 共同製作のよさを味わわせる。

順序	子どもの活動	指導のてだて	用具と材料
導入	● 学習の材料や用具をたしかめる ● 前時の活動をたしかめる ● 本時の作業の順序を知る	● 前時にひきつづき作業をすすめる上の活動の内容目的を理解させる	● いろいろな空箱 ● 画用紙
展開	● 空箱の形を生かして乗りものを作る ● 空箱・画用紙・色紙などを使い、立木・信号・公園などを作る ● 表現の方法を工夫し、楽しみながら続ける ● 乗りもの・立木・信号などを建物とのつりあいを考え、ベニヤ板の上に配置する ● 作品を持ちより大きな町にする	● 表現内容に創造性をもたせる ● 表現の方法に工夫をさせる ● 乗りもの・立木・信号などをベニヤ板に配置するときにつりあいを考えさせる。 ● グループで作業をすすめる上に協調的な態度を養う	● 色紙 ● セメダイン ● はさみ ● ベニヤ板
まとめ	● できた作品を見て話し合う	● 話し合いの要点 ● 楽しく活動ができたか ● 表現内容に創造的がみられるか ● 表現の方法に工夫がみられるか ● 共同製作によるこんで参加したか	

第13回余市大会

素描(石膏 デッサン)

余市町立旭中学校 1年
 男21名 女24名
 指導者 板垣 玲子

1. 目 標

- A. 絵画表現の基礎的能力を高める。
- B. 素描することの意味を理解させ、表現の態度、習慣を身につけさせる。
- C. 色々な材料や表現の異なった作品を鑑賞し、その特徴やよさを味わい表現意欲を高める。

2. 全体の指導計画 [4時間]

1. 色々な描画材料や表現の違いを教科書の作品によって理解させ素描学習の意味を知らせる。……………1時間
2. 対象をよく観察し形の要点をつかみ感動をすなおに表現させる。……………2時間(本時)
3. 明暗を大きなマッサでとらえ、美しいと感じたことを、のびのびと表現し、作品を鑑賞する。……………1時間

3. 本時の指導の重点

1. しっかりつかみとる力を養う。
2. とらえた形を大づかみに表現させるようにする。

4. 本時の展開

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	準 備
<ul style="list-style-type: none"> ・本時のめあてを決める。 ・全体的なつり合を見ながら製作時間の計画をたてる。 ・画面にどのように入れるか考える。 ・①中心線を入れる。 ・大まかに描き顔の方向、目鼻口、髪の生えぎわの位置の見当をつける。 ・①線を入れる。 ・明暗をつける。 ・①鉛筆の使い方を考える。 ・計画通りに出来たかどうか話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のめあてをはっきりさせ、特に大づかみに物をとらえさせる。 ・かたくならぬよう安心感をもたせる。 ・観察し、かたまりとして石膏をとらえさせる。 ・中心線を決定したい。 ・作品を見て話し合いをさせる。 ・鉛筆の使い方、消し方に留意する。 ・巡視。 ・自分の作品と友達のをよく鑑賞し話し合わせ、次時の予告をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・画用紙 ・鉛筆 ・画板 ・画鋏 ・比例をはかるひも ・画架 ・その他、布、紙、(消すもの)

第13回余市大会

トーテムポール

余市町立黒川小学校 5年
 男19名 女22名
 指導者 吉田 敏之

1. 目 標

- 木材を用いてトーテムポールを作ることにより、感情、感覚を意識的に造形して、凹凸のもつ力強さ、動きなどの表現力を養う。
- 彫刻刀、のこなどを使って木材を切ったり彫ったりする作業になれさせると共に、共同作業の態度を身につけさせる。

2. 全体の指導計画 [4時間扱い]

- 1…… トーテムポールを作る計画をたてる ……………1時間
- 2…… 材料集め ……………時間外
- 3…… トーテムポールの本体を作る ……………2時間
- 4…… 着 色 ……………1時間(本時)

3. 指導の要点

- A. ねらい ● トーテムポールに効果的な着色をさせて、力強さ、動きの表現を高める。
 - グループでよく相談しながら作業を進め、協力、完成の喜びを味わう。
 - 他のグループ、自分達のグループの作品について話し合い、民芸品などの鑑賞の初歩を身につける。
- B. 準 備 ● 材料、トーテムポール、くぎ、接着剤、ポスターカラー(教師)
 用 具 ● 彫刻刀、紙やすり、金づち、木づち、工作台(教師)
- C. 本時の展開

学 習 内 容 と 児 童 の 活 動	指 導 の 留 意 点
話し合い <ul style="list-style-type: none"> ・前時との関連 今日の作業について 材 料 用 具 作業上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・原色を用いて濃くぬることにより効果が上がることに気付かせる。 ・着色後少し彫ったりする方法もあることを知らせる ・じょうぶにつなぐための工夫をさせる
造形作業 <ul style="list-style-type: none"> ・着色する(彫る) ・つなぐ 	<ul style="list-style-type: none"> ・材料用具の使い方が適切であるかどうか ・着色が逆効果とならぬように配慮する ・まっすぐに、じょうぶにつながせる
反省する <ul style="list-style-type: none"> ・自分達の作品 ・他のグループの作品 ・他の民芸品 	<ul style="list-style-type: none"> ・自由な意見を述べさせ、作品の美しさを味あわせる
次時予告	

第14回札幌大会 (昭和39年)

白と黒による平面の分割(デザイン)

札幌市立日章中学校 2年
男26名 女23名
指導者 佐野 千尋

1. 題材観

- 今日の美術教育が単に情操教育に役立つとか手先の技術的な訓練に止まるものでないことと言うまでもない。造形的な表現や鑑賞のつみかさねの中で人としてよりよい生活を創造していくための資質をつちかかっていくことを目的としている。学習活動の場で想像をめぐらし、目を見はり、考え、手を動かしながら、そこに形成されていくものは、さまざまな生活の場面で、それぞれの立場で生活空間を美しく豊かなものにしていくこととする敏感な感覚と意識と態度につながるものでありたい。
- 中学校の美術科における美術的デザインには、ポスター、パッケージ、表紙、マーク、文字、など具体的な題材があげられるが、その学習形態が“条件に適應させながら構想を計画的に表現していく”といういわゆるデザイン活動の一般的な過程をふんで進められるとしても、教育としての活動である限り、それが形式的に整っているとか、技術的に高度なものであることを目的とするものでないのは当然である。
- 生活と結びつくというデザインがおかれた位置を考えれば、(使って役にたつ)ということとは最大の目的だが、教育としてのデザインを考えるときにそのことを最終の命題とするよりも、むしろ与えられたさまざまな条件(対社会的なものを含めて)と自分たちの生活との有機的な結びつきを考えたり、生活空間において、いかにそれを美しく合理的に処理していくかについて工夫し製作することにその意義を見つけたい。
- ここにとりあげた題材は、美術的デザインとしてとりあげられている上記のような具体的なものでない。定められた空間を限られた条件に従って線や面で分割していくといった基礎的なものである。与えられた条件の中で考え、工夫し、空間に美的な秩序を作りだしていくデザインという行為をその最も基本的な構造的な構造の中でとらえて生徒に活動させてみたい。この教材は指導の系列からみれば“色と形の基礎練習”に入るものだが、そのとりあげた意図は上記のような判断によるものである。この学年ですでに“構成美の研究”として、変化と統一、バランス、リズム、などについて基礎練習をしている。さらにここで線、面、というような抽象的な素材がある条件の中で組立てながら、その中で視覚的なバランス、軽重感、動感、方向感などについての感覚と、それを意図的に構成していく能力を養いたい。そしてこれ以後にとりくむ“身の周りのデザイン”という立体的なテーマに入る以前の段階としてこの題材を位置づけたい。

2. 指導のねらい

- 平面を白と黒の面で分割する作業の中で、色による軽重感、面積感のちがいとさらにそれらに関連しながら視覚的なバランス、動感、方向感が有機的に変化していくことを学習させ、さらにそれらに対する感覚と空間を美しく構成する能力を養う。

3. 指導計画 [題材の位置づけ]

- 構成美の研究(変化と統一、バランス、リズム) 6時間
- ・(白と黒による平面の分割) 1時間 …………… 本時
- 身のまわりのデザイン(へやをかざる、整理のくふう) 6時間
- 本時の展開

学 習 活 動	指 導 の 要 点
<ul style="list-style-type: none"> 白い面と黒い面とが与える軽重感、面積感などについて掲示物を中心にして話し合いながらそれらを理解し感じとる。 白と黒の色面での軽重感、面積感を考えながら四辺形を垂直に、水平に、斜めに分割し、バランス、動き、方向感などについて工夫する。 作例について見たり話しあったりする。 同一面積の白と黒の色面で四辺形を分割する。 	<ul style="list-style-type: none"> 直線等で面積に分割された四辺形とさらにそれを白と黒で分割した四辺形を比較し、白と黒が与える軽重感、面積感のちがいを感じとらせる。 斜めの分割には動き、ひっぱり、方向感などがあることなどのヒントを与える。 バランス、変化、統一などについて工夫させながら平面構成の作業を進めさせる。

- 本時の平価
 - 異なる色面による軽重感、面積感のちがいを理解し感じとったか。
 - それらに感連しながら視覚的なバランス、動感、方向感が有機的に変化していくことを理解し感じとったか。
 - 平面構成の作業を通じて空間を美しく構成していく能力が高められたか。

第14回札幌大会 (昭和39年)

街で見えてきたところ

札幌市立北九条小学校 6年
男26名 女21名
指導者 佐藤 圭

1. 題材観

- 空間の認識力、表現能力は主題性と構想性、構成力を高めることによって深めることができると思われるので、児童に自由な主題を選択させることによって意欲的、個性的な能力の伸びを期待したものである。
- 観察画的な写生画(いわゆる純然たる写生画でないかぎり構想化された観察画)の過程を経て、その力を基礎においた構想画としての扱ひである。
- 児童の造形活動と意欲は旺盛である。寒い雪の中に何時間も立ちつくして、雪まつりの像をスケッチした何回も通いつめた児童が大部分であり、観察力、描写力等にはかなりの力を有している。(47名の児童中37年度46名、38年度45名が子ども道展はじめ各児童美術展の入選入賞児童である。)

3. 指導のねらい

- 主題性の深まりと構想力をより一層伸ばすこと。
- 視点の定着化された空間認識性の高まりとともに。
- 動勢を中心とした構成能力を高めてゆきたいと思う。

3. 指導計画

- 現場でのスケッチ …… 放課後街へ出て自由に。
- スケッチ帳から画用紙へ。…… (2時間) 主題構想を下描きし構成するための話し合いを含む。
- 色彩で表現する前の話し合い。…… (1時間) (本時) 下描きした画面を前にしてイ主題性との関連における構想はどうか ロそれが生きた構成になっているかハ色彩構成はどう構想されているか、児童の予想計画について。
- 色彩で描く。…… (4時間) 製作過程での話し合いを経て完成する。
- 互いの作品をみながら感想を発表したり批評し合う。…… (1時間)

4. 本時の指導

- ねらい 主題イメージの構想と構成の力(色彩構成も含めて)
- 準備 画用紙(白ボール下がきをしたもの)水絵具、パレット、水入れ、わりばし、ペン筆、タンポ、布、等
- 本時の展開

学 習 活 動	指 導 の 要 点
<ul style="list-style-type: none"> 主題構想 — 構成についての話し合い。画面での主題の位置、空間構成比より内容、物と物の組合わせ、対象の補足、移動、省略について、登場するものの性格づけ。 色調について — 主題性から構想。主調色 ・最も強調したい部分はどこ、主体と従属。明暗の組合せ・アクセント・リズム感 相対的なものの総合された調和、変化と統一。 	<ul style="list-style-type: none"> 主題表現のために効果的な方法が工夫されたのは、自然性に即した変化、統一。画面に形態や空間の相殺関係はないか。 基底線、上下左右の空間構成比。 視点の定着度の深度差によって主題の強調の度合が変ってくることに気づかせたい。 主題と色彩との関連について。自分の気持ち、感じ方心意によるロマン性と場面のもつリアリティとの調和。

第15回稚内大会 (昭和40年)

じょうぶな組み立て

稚内市立稚内南小学校 6年
 男24名 女21名
 指導者 藤井常雄

1. 題材観

1つの単位形を考え、その特性を利用して数多く組み合わせることにより、新しい構造の形が生まれることに気づかせ、ビルや橋りょう、道路などの建設にも使用されていることを理解させる。

単位形をもとにしてできる構造をくふうさせユニット構成による構造のおもしろさに気づかせる。

このような構成練習は材料的発想にまつところが大きいので、材料の性質や可能性について考えさせ、組み立てをくふうさせたい。

2. 指導のねらい

- 単位形の組み合わせによる構造をくふうさせる。
- 突っばる力と引っばる力を利用し、じょうぶな構造をくふうさせる。
- この構造を応用して立体的作品を作らせ、構成力を養う。

3. 指導計画

- 教科書の例の単位形を作ってみて、材料の可能性を考える。新し
 い単位形の制作。……………1時間
- 前時の継続作業。……………1時間
- 単位形の組み立てによって、立体的作品の制作。……………1時間(本時)
- 前時の継続作業と整理・反省。……………1時間

4. 本時の指導

- ねらい • 突っばる力と引っばる力を利用して、じょうぶな構造をくふうさせる。
- 準備 • 竹ひご、輪ゴム、画用紙、糸、ヒートン、セロハン、ベニヤ板、角材はさみ、接着剤、ナイフ

5. 本時の展開

要項	学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
導入	• 本時の学習内容を把握する。 • 新しい単位形の組み立ての予想について話し合いをする。	• 作品は30cm以内。 • 質問回答は机間巡視で行なう。
展開	• 制作する。 引っばりの効果を考えながら組み立てる。	• 組み立てにあたり、となりどうし手助けさせるようにする。
整理	• 計画どおりに進んでいるか話し合いをする。	• おもに引っばる力・突っばる力(じょうぶさ・補強等)について話し合いさせる。

第15回稚内大会 (昭和40年)

野外彫刻

稚内市立稚内南中学校 3年
 男21名 女21名
 指導者 木立博康

1. 題材観

中学生高学年一般にみられるように、美術への関心は決してある学級とはいえない。男子は比較的に無口の生徒が多く、また一般に男子より女子の方が何ごとにおいても活発である。しかし、地域的にも、学年を考えても教室などと同じもりがちな生徒が多い。このような生徒を屋外に出して、その自然の太陽の下で思いきり新しい材料に取り組ませたい。セメントについては、多くの建築物やその他で、よく生徒は知っているが、完成されたもの以外に、直接その材質に触れることはあまりないと思われる。

したがって触れることにより、その材質感を体験させ理解させたい。セメントは共同制作の題材に適し、完成後野外に飾っても雨露による損害がなく、記念像として、生徒たちの気持ちを母校に残すことができる。しかし初めての試みであるので興味や関心も大いにあると思われるが、失敗も多く出ると考えられる。しかしそれなりに新しい体験が生徒にうえつけられれば幸いと思う。

2. 指導のねらい

- セメント彫刻についての制作技法を体験させ身につけさせる。
- 野外における彫刻の美しさと環境の美化について理解させる。
- 共同制作により、協力の大切なことを知らせる。

3. 指導計画

- ボール紙でいろいろな型のブロックのはめ型をつくる。……………2時間
- はめ型にモルタルを流しこむ。……………2時間
- いろいろな型のブロックを重ね表現活動をする。……………2時間(本時)
- 仕上げをする。反省。……………2時間

4. 本時の指導

- ねらい • いろいろの型のブロックの組合せを工夫させる。
 • 共同して作業をするよろこびや協力性を養わせる。
- 準備 • 生徒 いろいろな型のブロック。板。
 • 教師 セメント、砂、パッキング、左官コテ、ブロック、はりがね、その他。

5. 本時の展開

要項	学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
導入	• 本時の学習とねらいについて話し合う。	• 事前にセメントモルタルを作らせる。
展開	• いろいろな型のブロックをどのようにつみ重ねていくか、グループごとに表現の方法を考え話し合う。 • 考えが一致したグループから、用意してあるモルタルでそれぞれのブロックをつみ重ねていく。	• グループごとに表現について指導していく。(量感、質感、空間など) • 左官コテの使い方をくふうさせる。 • つみ重ねのさい、危険のないように注意する。 • 環境の美ということからもあとしまつをしっかりとさせる。
整理	• あとしまつをする。	

第16回室蘭大会 (昭和41年)

ポスターをデザインしよう 室蘭市立北辰中学校第2学年43名
指導者 青野昌勝

1. 題材について

現代社会のマス・コミ攻勢のはげしい中において、また校内生活の向上に努力する一つの形として、この段階の生徒としては、ポスターが重要な働きをなし、その目的や意見が何であるかは、すでに相当の理解をもっていると考えられる。また中学校の中堅としての立場から、校内はもとより校外・社会・世界へと、それぞれの動きに対して、彼等なりに一定の視点から、思考を広めようとする意欲も芽生えつつあると考えられる。さらに、本市の中心街を校下とし、有形・無形の刺激を恩恵として受けてはいるが、一方、生徒の立場から考えると、交通戦争・騒音・煤煙等々の社会的現象が、必ずしも恩恵とばかり受けとれない幾多の要素を含んでいる。これらのややもすれば慣れきった障害を、意識化し、デザインとして生活化するとき、その活動の中から、造形の諸条件を理解し、感覚を高め創造性をつちかい、デザインに対する関心を高めるものとして、多くを期待できると考える。

2. 指導計画

- a. ポスターの機能や諸条件を考え、テーマを選定する。……………1時間
- b. 資料を蒐集し、アイデアをねる。……………1時間
- c. アイデアスケッチを完成し、制作計画を検討する。……………1時間 (本時)
- d. アイデアスケッチに基づき、制作をする。……………2.5時間
- e. 作品について話し合い、ポスターについての関心を高める。…0.5時間

3. 本時の目標

アイデアがデザインを支える重要な要素であることを知らせ、アイデアスケッチの試作の中で、制作上の具体的な問題を検討させるとともに、創造力を高める。

4. 授業の構造

授業の過程	解決すべき問題	生徒の活動	教師の指導	造形操作
導入	資料・テーマ・アイデアをどんな手順で位置づけ仕事を進めるか。	今までの学習をかえりみ、制作計画を確認する。	新鮮なアイデアを定着させるための指導。 資料の活用について。 ラフスケッチからアイデアスケッチへと発展させる工夫。	アイデアの深化。
展開	キャッチフレーズと図柄の調和、色数と表現材料とのかわりをどうすべきか。	資料に基づきアイデアスケッチをする。 簡単に着色し、スケッチを完成する中で、材料・配色計画・表現技法等を検討する。	図柄の単純化、配色計画、文字・図柄のレイアウトのための条件づけ。 材料・用具等の合理的な利用法・表現技法を工夫させるための指導。 参考作品による技法の研究。	主従の把握。 目的的配置。
整理	アイデアスケッチとしての限度をどの程度におさえるのが適当か。	友人の作品も含めてスケッチについて話し合い、制作への参考とする。	目的に合った材料・用具の選択。 次時の計画・準備について知らせる。	主題の再確認

第16回室蘭大会 (昭和41年)

港で見てきたところ(共同製作) 室蘭市立常盤小学校第3学年38名
指導者 片平浩史

1. 題材について

この学級の児童は、3学年への進級のとき、学級編成された学級で、図工に対する関心もひくく、概念的な絵を描く子が多い。特に、造形要素的なものをまとめる力もとぼしい。

中学年になると、児童はだんだんと集団としての過し方も向上し、共同製作をする場合にも話し合いによってテーマをきめ、分担して表現することがある程度可能になってくる。そこで、子どもたちがいつも興味を持っている港をテーマにして共同製作することによって複雑な人間関係における協調性、適応性を身につけると共に、おたがいに理解し協力しあうことによって、1人ではできない大きな仕事をなし、出来上がった作品について自分が参加している喜びを味わうことができる。この過程において、個人の創造力を充分生かしながら製作の喜びを体験させたい。

2. 指導計画

- a. 港の見学と共同製作の計画……………2時間
- b. 構成のグループ討議と下絵かき……………2時間
- c. 色調の検討と彩色……………2時間 (本時)
- d. 製作後の感想・作品の全体鑑賞……………1時間

3. 本時の目標

- ・画面全体に目を配って美しい配色と、よい配色に関心をもちさせる。

4. 授業の構造

授業の過程	解決すべき問題	児童の活動	教師の指導	造形操作
導入	どんな配色をしたらよいだろうか。	グループごとに色調を話し合う。	港の感じを出すための設問。	明暗などのバランス
展開		おまかに色面をわけて、画面全体にわたり、まず主要な色面を配置する。	グループ内で協力的に彩色するための分担をきめる設問。	
整理	よい配色について気づいたのだろうか。 うまくできたところはどこだろうか。	各色面の部分について、細かく色をぬる。 グループの作品を見て感想を話す。 後片づけをする。	画面全体に目を配って彩色するような設問。	

指導の構築を

具体化する

授業解説

主催 北海道造形教育連盟
札幌市立東小学校
後援 札幌市教育委員会
札幌市教育研究協議会
日時 昭和42年5月6日(土)

授業案

題材(構想画)

月にむかつてとぶ鳥の群れ

対象 札幌市立東小学校
四年一組四〇名
指導者 金井秀男

○どんな考えで、この題材をつくり出したか
十数年間、私は子どもの絵にとりくんできました。その中で私は、子どもから数多くのものを学びとることができました。過去の私は、明暗が正しく描かれていた絵やおもしろい技術が使われている絵をよとし、指導の課題の中心にすえておいたこと

がありました。しかし、現在の私は、子どもが生きるエネルギーを願う事を課題の中心にもつようになりました。ですから当然題材も、その願いの反映として形づくられていくようになりました。

○そこでこの題材をつくりだすにあたっては「思い出して描きましょう」式では、生き生きとした心象表現ができないことを、いやと言うほどに経験してきましたから、それを避けることにしました。

○子どもの記憶は部分的なものであって、イメージ化するには相当以上の困難さがあり自由にかまきましようという型では自由に時間を使いうる個人的な学習形態の中であるならば表現されようが、学級集団という形態の中ではどうして学習のはなり得ないと判断して、自由な選題を避けました。

○子どもの記憶(認識したこと)と、創造する(新しい組立てをする)ことの関係を方法論的に説明することはできないものだろうが、子どもが「かきたい」という心情をもつことを「自然発生的」と考えるならば「なにを」といった教師の意図したリード的役割が必要となり、私はそれを「題材を与える」という形で説明してみようと考える

ました。

○子ども達に何を獲得させるか、(子どもの心の底に永久に残るもの)ということからも、固定的で、またかという感じをいだかせるものを極力とり除く仕事こそ、現在の私の仕事だと自覚化してきたのです。

○これらの要因にたつて子どもの心を開拓しようものとして、この題材をつくり出した訳です。尚、この題材は「指導の構築」の方向に即して生み出されたものであり、ひとりひとりが自然、社会、物語の選択の中で自由に画面を構成し絵をまとめていく力を望み、それ逆の過程の一つとしての試みでもあります。

○題材の解釈

「ある月夜に私は、沢山の鳥の群れと一緒に月にむかつて飛びました。月は満月でした。野を越え海を越え、私はいまままで感じたことのない大きく広い自然を見ることができました。」

これが題材の物語の内容であります。この短い話は「鳥の群れ」「月」「海」といった造形的道具だてを用意したもので、それを画面構成のポイントとしました。絵というものは描き楽しむというだけでなく、ぜひ考えなくてはならぬことがあります。

そのむずかしさを克服すれば、もつと楽しいものだという所まで引き上げてやりたいしそれを願っているものです。この題材はその願いの反映であります。

あかるい月の夜ふしぎな色の中にとけこんでいった私と鳥、といった背景の色やフニキを織り重ねることができれば、でなく、どんな、山野、海、家、船といった種々なイメージが、充分視覚化でき拡大できると考えます。

○目標

①ともすればメカニカルな目の前の生活環境からのがれることのできない子どもたちに、造形的に語る力を与え巾の広い空想とイメージをもたせてやりたい。

②造形的な道具だての条件の中で、画面を構成する力を養い新しい発見や発想を図る。

③構図の工夫にあわせて、色彩が互いに助けあうように工夫させる。

○計画(五時間)

第一次 お話をきき条件を駆使して簡単な下絵をかく。(一時間)

第二次 下絵を再構成しながら、イメージを一層はつきり定着させる下描き

第三次 色の調子(濃淡、調和、アクセント)を考えて色彩する。(二時間)

をす。(二時間)

第四次 作品について話し合い、自分自分の作品を補う。(二時間)

○展開の角度

①幻想的要素をもつこの物語には、それを使えるに適用した画用紙(チップボール)を使用することにする。これは今迄使用してきたマニボールの技法のマンネリからの脱皮のためにも効果的であると考える。

②鳥については、鳩の観察、スライド、図鑑などで形体把握を深めさせてやろう。そして動くものへの観察と表現へ意欲づけていってみよう。

③高さ、広さを表現するために、重面構成が生まれてくるようにしむけていこう。

④下絵は詩がかきこめるように、詩の白ノートにかかせよう。

⑤下絵ができたなら、それを更に下描きで再構成していってみよう。その時はできるだけ下絵からはなれる気持でかかせよう。

⑥説明的におちいりやすいワリペンの線から、もう一度えんぴつにもどって下描き

させよう。

⑦色を制限して表現させていってみよう。しかし必要な所には充分色をほどきせていこう。そうして一層色の美しさをたずねさせよう。

⑧よくねりませること、しっかりとした筆洗いといった造形の基本的な態度や能力はきちんとさせよう。

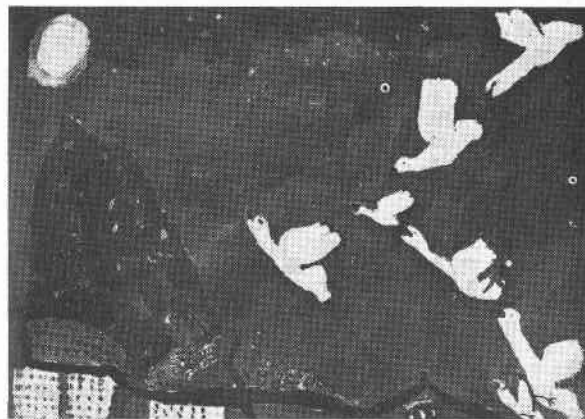
⑨作品を互いに討論させ、その中で考えることがあつたらすぐに補足させるようにつとめよう。

⑩これからの方向点は、お話の自由な選択と主観と内容を結びつける構成力を育てるにあることをよくおさえよう。

○準備

児童 描画用具一揃、ノート、新聞紙
教師 画用紙(チップボール)筆洗具、スライド、児童参考作品、白えのぐ若干

	<ul style="list-style-type: none"> ・お話の中味と色彩との結びつきを考えさせる ・色の調子、濃淡、調和を一層深かめさせる為に色を制限させる 	<ul style="list-style-type: none"> いくことは ・きょうは白十黒十（自分の好きな色3色）をおもに使って下さい。でき上った所で必要な所に色を出して下さい。 ・さあ、では始めてもらいます （ていねいによくねるを考えてやって下さい 	<ul style="list-style-type: none"> はっきりさせる ・その気持ちになってかく、等答えるであろう。 ・ほかの色は使えないのですか ・どうしてもですか ・同じような色の仲間間でなくてよいのか ・立ってかいてもよいですか ・水かえは 	<ul style="list-style-type: none"> 三色十白十黒でも沢山の色ができることに気付くであろうから、それを視覚化できるようにしていく ・色の予想を考えさせるようにしむける ・筆洗いの場所、布のおき方、筆洗いの方法、姿勢等についての注意しておく
製作展開	<ul style="list-style-type: none"> ・個別指導 個性的表現の助長 対話による発想指導 構成から完成迄の予想と話し合い ・意図した、色感になるまで、えのぐをねる 	<ul style="list-style-type: none"> ・お話の主人公、鳥からぬっていきましよう ・自分の心にきいて気持ちに合う色やかき方をするのですよ ・色を作りだしているか、どうかを個個の子どもにふれる ・大事な所がはっきりわかるように描いていこう 	<ul style="list-style-type: none"> ・どの色とどの色をまぜるかな ・思った色がでないなあ ・どの色とどの色を並べるとにあって気持ちにあうか ・足りない色を補う ・自由な姿勢で描く ・鳥の彩色 ・月の彩色 ・夜空の感じなどに工夫をこらす 	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲に気をとられておじけないように自信をつけてやる ・友だち同志のコミュニケーションをはからせる ・パレットの使用に気をくばる ・制限色の中で、色を作ることの意味や、その効果への語りかけをしなくてはならない
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・色の予想と出来上った作品から、反省をしてみることができるようさせる ・話し合いの中からこれからの方向をみつけだしたり、補足する所がわかるようにする ・次時の予告 ・あとしまつ 	<ul style="list-style-type: none"> ・定着をはかるために各自の作品について話し合いをしてみる ・自分の作品で考えていなかったことや、色の美しさに気付かせるようにする ・次の時間にはどんなことに力を向けますか 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の作品の発表をする ・予想していた考えが途中から変化した子の発表、それを通しての話し合い ・いろんな面で質問をしたり、自分の経験を話し合ったりする 	<ul style="list-style-type: none"> ・困ったことがあったら何でも聞いてみよう ・問題を焦点づけ、個々のもつ問題の解決点に役立てるようにまとめる ・次の時間の見通しをつけさせ



本 時 の 展 開 (60分)					
目標 ○心構やイメージを、はっきり表現していこうとする彩色態度を養う。 ○色のひびきあい、用紙を考え、よくパレットでねって色を作る力を定着させる					
段 階	教師の意図	時 間	教師の働きかけ	予想される児童の活動	留 意 点
導	<ul style="list-style-type: none"> ・画用紙についての性質の理解を図る ・画用紙の特質にあった彩色にふれる ・色はつくることができていることを理解させる ・色の作り方の基本的操作を深める 		<ul style="list-style-type: none"> ・この紙はマニラボールと、どう違うかな ・色がきれいでいるのですから、白っぽい色はどうかかな ・白っぽい色はチューブの中にあるかな ・どうやって作ったのか ・白と純色のまぜ具合は ・黒っぽい色はどうかかな ・黒っぽい色も絵をかく時に必要な ・白っぽい黒っぽいだけでなく色をぬる時に気を付けて 	<ul style="list-style-type: none"> ・すぐに乾く・水を吸う紙だ・白がきれいで ・筆の運びが悪い ・上塗りができると言った答をするだろう。 ・おなじにきれいで ・でも水をいれすぎるとボケてしまう ・いやない。 ・作ったものだ ・純色に白をまぜてよくねり合せて ・ほんの少し ・それもきれいだ ・いや汚い ・意見がわれる ・色はとなり同志でよくなったり悪くなったりする ・色彩の対応に気づく ・感じを出す ・自分の好きな色 ・何がかいてあるか 	<ul style="list-style-type: none"> ・失敗してもすぐに重色できることで安心感を与えたか ・純色十白と純色十黒との基本的な混色の作用を十分に気付かせねばならない ・何の為の彩色かをはっきりさせなくてはならない
入					

太陽と人と樹

函館市立の場中学校第2学年 41名
指導者 長 政 裕

1. 題材について

中学生になると物の見方、考え方が知的になり、美を対象から求めるようになるため、構想による表現活動に自由さが少なくなる。この点を考え、生徒の自由な想像力を伸ばし、表現意欲を高め、合わせて創造力を一層育ててみたい。そして、題材に使われる太陽とか樹といった素材は、人間と自然の結びつきから考え、明るく清潔なイメージを発想させるにふさわしいものと思われるし、生徒が興味をもって取り組めるものと考え、この題材を設定した。

2. 目 標

- (1)主題によって心に描いたイメージを絵に表現する力を養う。
- (2)イメージに合った構成・色彩・描法を考えさせ創造的に表現させる。

3. 計 画

- 人物クロッキー..... 1時間
- 太陽と樹の構成..... 2時間
- 太陽と人と樹の構想画(アイデアを練る)..... 1時間
- 太陽と人と樹の構想画(下絵をかく)..... 1時間
- 太陽と人と樹の構想画(着色をする)..... 3時間(最終1時間本時)

4. 本時の指導

- (1)目 標 ○構成内容と配色についてイメージとの関連を考え技法をくふうし独創性を生かす。
○最初のイメージを生かしながら全体の配色計画にそって着色し効果的に作品を完成させる。
○完成した作品の特徴について鑑賞させ、個性的表現について考えたり味わう態度を養う。
- (2)準 備 4ツ切り画用紙・水彩えのぐ・サインペン・パス類・画板など。
- (3)指導過程

指導のねらい	学 習 活 動	指 導 の 要 点
○準準備の確認をさせる。 ○完成段階の配色計画を確かめさせる。 ○最初のイメージを生かしながら全体の色調、主題の強調性を考え着色する。	○きょうの仕事を確かめる。 ●準備・用具・配色計画 ●着色の順序 ○全体の色調を考え着色作業を効果的に行い作品を完成する。	○準備、仕事の手順を確実にさせる。 ○自分の主題感をはっきりさせ、意欲的に表現できるようにする。 ○表現内容とイメージの関連を考え、着色技法をくふうし効果的に表現させる。 ○筆のタッチや諸技法をイメージとの関連で十分生かした表現をさせる。 ○健康的な美しさを表現させるよう個別指導する。
○どんな点が個性的に表現されているか鑑賞させる。	○自分の作品や友だちの作品を鑑賞し、それぞれの良さや特徴を味わってみる。	○個々の作品を鑑賞させ、アイデア、構成、主題性、配色、技法等から自由に発表させる。長短の発見を今後の表現活動の進展に役立たせる。

デスクアクセサリー

函館市立大川中学校第1学年 40名
指導者 越 田 喜 忠

1. 題材について

紙、これは私たちにとって一番身近な素材である。この紙の曲げる、折る、切る、接着する、等の自由にできるという特質を利用し、構造や形体について研究させることは、見慣れている素材に対して再認識させることだけでなく、同時に材料についての可能性を発見させることでもある。ここで、画用紙、カラーホルムを使って立体をつくらせ、紙が構造によって強度を増すことを理解させると同時に、立体に対する感覚を鋭敏にさせ、ルームアクセサリー、パッケージ等の製作に役立っていることをも理解させたい。

2. 目 標

- (1)紙の特質を生かした、単純で、美しい立体を構成させる。
- (2)基礎練習と飾るデザインの関連をはかる。
- (3)自分の製作した作品を身近かに飾る喜びを味わわせる。

3. 計 画 (8時間)

- 紙の造形性について話し合い、その特質を生かした立体を構成する。..... 3時間
- 出来上がった作品の飾り方について話し合い、アイデアスケッチをし補助材料を考え、計画を立てる。..... 1時間
- 計画にしたがって製作する。..... 3時間(本時2/3)
- 作品を完成させ、各自の完成作品について話し合う。..... 1時間

4. 本時の指導

- (1)目 標 ○立体の作り出す空間の美しさを理解させる。
○主材料と補助材料の違いを考え、用具や技法を考慮し適切に表現させる。
○計画的、創造的に製作する態度を身につけさせる。
- (2)準 備 (材料)画用紙、カラーホルム、塩化ビニール板等。(用具)定規、ナイフ、コンパス、接着剤、セロテープ、糸、等。(その他)参考資料
- (3)指導過程

	指導のねらい	学 習 活 動	指 導 の 要 点
導 入	○本時の内容、手順を確かめさせる。	○全体計画と前時の仕事を比較検討し本時の内容、手順をおさえる。 ○本時取扱い材料について話し合う。(紙以外の補助材料について)	○アイデアスケッチを含めて検討させる。 ○作品をきれいに仕上げるための方法について考えさせる。(補助材料の切り方、折り方、接着方法等)
展 開	○前時に引き続き順序よく製作させる。	○製作にとりかかる。 ●紙で立体を構成する。 ●補助材料で保護し飾る。 ●必要に応じスタンドを考案する。	○立体の取扱いに留意させる。 ○安定感のあるものを工夫させる。
整 理	○製作状況を確認させる。	○作品を大切に保管し、後始末をする。	○保管上の注意をし、次時に必要なものをまとめさせる。

虫のえんそく(デザイン)

苦小牧市立苦小牧東小学校
第2学年 42名
指導者 船着 昭弘

1. 題材について

低学年の平面デザインではリズム一本にしぼって指導しても、先ず間違いはないと思っているが、単に同じ形を自由にならべる学習ばかりでなく、大小、集まり拡がり、方向のリズムなどを、低学年向きにかみくだいて、題材を設定してやるのが、リズム感覚を発展的に養っていくことになると考えている。

この意味で遠足の時に楽しんで歩いた経験による連想をもとに、子どもが強い愛着と興味をもっている虫をユニットにして、方向をもつ配列指導のために、この題材を設定した。

2. 学習のねらい

- 虫の形や色に関心をもたせながら、楽しくはらせる。
- ならべてはることによって、方向をもつリズムやくり返しの美しさなど、造形秩序に対する感覚を育てる。
- 紙のちぎり方、のりのつけ方などの基本的技術を身につけさせる。

3. 計 画

1. 花をみてかく..... 1時間
2. 花ばたけ(共同)..... 2時間
3. 虫のえんそく..... 2時間(本時)

4. 本時の指導

- イ. 目 標 大小や方向を工夫して、くり返しはらせる。
方向のリズムや、くり返しの美しさに関心をもたせる。
- ロ. 準 備 色画用紙、色紙、のり、クレヨン、パス類、のり下紙、手ふきなど
- ハ. 指導過程

	指導のねらい	学 習 活 動	指 導 の 要 点
導入	ねらいの定着化。	● 前時学習の話し合い。	● ねらいを確認する。
展開	大小や方向を工夫させる。	● 計画通りどんどんはる。 ● 細かなところはクレヨン類でかく。	● 親子による大小や行先による方向に留意させる。
整理	リズムに関心をもたせる。	● 作品について話し合う。	● くり返しによる大小や方向のあるものの美しさ。 しごとのたしかめ。

くわがたのすもう(版画) 苦小牧市立若草小学校第1学年40名
指導者 内 潟 光 尚

1. 題材設定の理由

対象を単純化して面で表現し、切ったり、重ねたりして、分解、組み立てをして版を作るという紙版画の特色を、くわがたのからだの構成を意識させ、遊ぎ的な製作とおしてつかませたい。版画の学習体系の中で最も重要な分野の一つである紙版画の基礎学習として、しかも構成がはっきりするような題材を取り上げたのである。

2. 学習のねらい

- ① くわがたを造形的に表現させる。
- ② 紙を切ったり、ちぎったり、重ねたり、並べたり、はりつけたりすることによって、画面の組み立てを工夫させる。
- ③ 版を写して(刷って)絵にすることに興味をもたせる。

3. 計 画

- かた押しあそび (2時間)
- 積み重ねあそび(デ) (2時間)
- 動く人形 (工) (3時間)
- 紙 版 画 本時(3/2)

4. 本時の指導

- イ. 目 標 くわがたを造形的に表現させ、画面の組み立てを工夫させる。
- ロ. 準 備 画用紙、ナイフ、のり、のり下紙、手ふきなど。
- ハ. 指導過程

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
導入	題材について話し合う。	● 題材は事前に予告しておく。
展開	作り方を聞く。	● 相撲の経験を話し合う。
	版を作る。 ● 切る。ちぎる。 ● 並べる。重ねる。 ● のりづけをする。	● どんなふうになっているところを表わしたらよいかははっきりさせる。
整理		● 画用紙から、カッターナイフや指先を使って形を作る。(鉛筆などで下がきしない。)
		● 大きな部分の形を作り、それに小さな部分を重ねていくようにする。 ● 切り取った形は台紙の上に重ねたり、並べたりして組み立てさせる。 ● 組み立てた形をのりで固定する。

第19回札幌大会 (昭和44年) おうまにのった おうさま

札幌市立美香保小学校 38名
指導者 遠藤 久 男

1 題材のもつ意義

2年になって造形的に要求できるものは、遊びや生活の中から衝動的に造形した直観的表現でなく、まとまりのある客観的表現へと向わせることであり、主題を意識させて知的に表現させることである。

そこで、画面をまとめさせる題材としてお話の絵は、造形的要因を総合的にとらえさせる意味において格好のものである。従ってここではその本格的な物語り絵の指導のための第1段階として、物語的同一場面を設定して集団思考をさせながら、主題追求の意識的な学習を高め、豊かな想像を期待するものとして考えたのである。

2 題材のめあて

主題条件を課題として、現実から離れた想像の世界の中で低学年なりに画面構成をさせる場合、主人公を強調するもの説明的情景描写とことおり考えられる。その中で説明的情景を物語りふうにとらえさせ、独創的な表現力をのばすことにめあてをおく。

5 本時の展開

	学習の流れ	指導の留意点	児童の活動
導入 ↓ 展開 ↓ 整理	主題条件の設定	主題を感動的にし、表現意欲を喚起する。	主題条件を知る。 興味・関心をもって発想し主題に向う。
	主題条件の分析	集中性を高めて主題を意識化する感動の質を深化し、イメージを鮮明にする。	条件を確かめる話し合い。 主題に向って想をねる。
	空間構成	条件の具体的整備。 集団思考で空間構成に高まりをもたせる。 ベースライン構成の要因について具体化する。	描く情景をはっきり決める。 主人公の位置・お供のようす・夕やけ空と小鳥等々。
	表現	彩色への計画性(下絵のもつ意味)個別指導の徹底(子どもの発想を尊重)。 興味の持続・発想への激励・条件の確認・描材。	描材を決めて、彩色を考えながら描く。
	発表	表現の多様性を理解させ、独創性を高める。 感覚的な表現、混色(純色と白)・重色のしかた。 主題追求の態度を高める。	話し合いで、作品を確め、不足のものを加える。 いろいろの表現のあることに気づく色のねり方・水の量に注意する。 自分の作品を見直して、これからのことを考える。
	彩色		
	作品の紹介		

3 指導の計画——4時間扱い



- ・関連既習題材
 - 描 おうまにのろう
 - 描 雨ふりえんそく
 - (林の中を歩きました)
 - 工 かんむり
- ・発展する題材
 - 版 どうぶつ
 - 版 山のむこう
 - の こと
 - デ みにつける
 - かざり
 - 工 おめん

4 本時の力点

- 同一の場面設定によって思考の焦点化を図り、お話の絵の第一歩として、暗示をもとに子どもの想像を考えながら
- ・主題条件を感動的にとらえさせるために、どのように話し合うべきなのか。
- ・集中性を高めて主題の意識化を図る。
- ・集団思考によって空間構成への高まりを。
- ・ベースラインと情景の関係に気づかせる。

第19回札幌大会 (昭和44年)

かみのいえ

札幌市立羊丘小学校 40名
指導者 伊藤 恵

1. 題材のもつ意義

直方体と子どもとの出会いは空箱にはじまる。

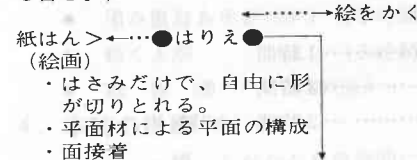
空箱の工作は、すでに立体であるものを用いるので、<立たせる><かこむ>といった、平面材から立体への組み立てに関することは含まれていない。

接着の面でも、最も安定した面接着の連続で、自然発生的な技法で十分であった。

<かみのいえ>は、そのあとをうけて、直方体そのものを、平面材で組み立てることの学習である。

ここでは、指導する面と、くふうさせる面が比較的はつきりして、<自然発生的>な技法だけではすまされなくなっている。

この学習の前後の関係は、つぎのようである。(必ずしも直接的でないつながりも含む。)



5. 本時の展開

流	れ	発問や作業の要点	備	考
用意する		・<かみのいえ>と板書の後、ひとりひとりの用意をみて不足があれば補充、元気がない子は、はげます。	準備<児童>ゴム系接着剤 クレヨン、はさみ、下敷新聞紙など、<教師>B4画用紙、はさみ、カッター、 展示用前面机。	
壁だけの家をつくる		・「そうだ、こうやればいいんだからよつとみて」 示範により①紙を縦半分に折りさき、②1枚だけの短い2辺のりをぬる。③その2辺を接着して、輪をつくる。④輪をつぶして、2本の折り目をつける。⑤さらに広げて、別方向でもう一度つぶし、もう2本の折り目をつけて広げる。⑥壁だけの家ができあがる。	①できた子の確認②遅い子や感違いの子の指導のため 示範と机間指導を交互にする。	
たりないところのくふう		・「家ができました」とよくみる。 子どもは、「やねない」「まどない」「ドアない」と意見を出す? ・「たりないところどうやればできるのかな」ともちかけ、残りの半分の画用紙を使って、自由につけたさせる。	話し合いながら、子ども達の考えをひき出し、声を出さないものも内心でわからせたい。わかった子から、作業をはじめ。はじめ一斉つぎ机間指導 指	
くふうをみせあう		・できた子は、前の机上に提出させ、どこをくふうしたか、いわせてみる。 ・じぶんのくふうを、みんなに知らせる。	一斉指導、遅れた子は、作業のままきく。	

粘土へ←……●空箱でつくる●←……
(彫塑)空箱を自由につんで、いろいろのものをつくる。

・立体材(塊材)による立体の構成
・面接着—ゴム系接着剤使用
工作一般へ←……●かみのいえ●←……
(工作)

・平面材による立体構成
・線接着—ゴム系接着剤使用
平面材の彫塑工芸へ←……●ふくろのかお●←……
(工作) (デザイン) ●紙のきもの●←……

2. 題材のめあて

- ・直方体のつくり方について、初歩的な経験をさせる
- ・画用紙を自由に切りつけたりして、目的にあった作りかたのくふうをさせる。

3. 指導計画

- ・接着の練習<ゴム系による>
- ・紙輪つくり→家のかべ
- ・子どものくふう

4. 本時の力点

- ・教える面→壁つくりと接着のし方をおしえる。
- ・子どものくふうの面→どのように考えさせるか。

第19回札幌大会 (昭和44年)
童話の表現

札幌市立平岸中学校 44名
指導者 菅原 稜 三

1. 材料のもつ意義

最近のテレビと映画の普及はめざましい。特にテレビの家庭への進出はめざましいものがある。そしてそこではアニメーションが全面的に利用されているといってもよい。そこでその原理を研究させたいと考えた。映画のいろいろな技法の中でも、アニメーションは幅広い可能性をもっているのではなからうか。テレビの普及によって非常に身近なものとなった、アニメーションを見なおすことは、新しい美術・デザイン教育によって意義ある事だと思ふ。また中学生の新しい教材として充分生徒の興味と楽しさをひくものと考ええる。そして映画芸術の可能性を理解させ、創造的な表現をさせたいと思う。

2. 題材のめあて

動画の原理を理解させ、一連の動きや変化が感じられるように、何コマかの連続した画面を構成させる。テーマを与えそれにむきあひ表現方法を工夫させる。制作や鑑賞をとおして、動画への関心を深める。科学技術と芸術との総合による新しい造形の可能性を理解させる。

5. 本の展開

	指導のねらい	学習活動	指導の留意点
導入	1. 題材についての学習計画を知らせる。 2. 諸準備の確認をさせる。 3. テレビコマmercial、漫画映画など、生徒の日常親しんでいるものを中心として、動画を話し合い発表させる。	・諸準備の確認をする。 ・動画の原理や制作の要領	・4人ぐらいのグループ学習の形式をとる。 ・意欲をもった態度を身につける。
展開	4. 動画作品を鑑賞し、それをもとに興味を深めさせる。自然現象の再現でなく・単純化・誇張化・漫画化に重きをおき、それが表現材料とどのように結びつくか、新鮮な発想と簡潔さを保っているかまた動きを充分構成の中に示しているかを特に見ていきたい。 5. 既成または創造した童話のストーリーを考え、場面もとらえさせる。内容の興味面白さをストーリーの中にとり入れるよう指導する	・参考作品を鑑賞しそれららについて話し合う。 ・感想を発表する。 ・ストーリーを考え合いメモする。 ・分担をきめる。	・制作の手順をはっきりする。 ・グループの生徒が全員話し合いに参加し、みんなが理解するよう指導する。 ・動画の条件を満たしているか。 ・10コマぐらいでおさえたい。
整理	6. 次時にはストーリーを具体的にスムーズにつくる事を確認する。	・本時に学習した事を話し合う。 ・後仕末をする。	

第19回札幌大会 (昭和44年)
いれもののデザイン

札幌中学校 41名
指導者 加藤 五十和

1. 題材のもつ意義

生活のあらゆる面で、商品の外装や商品の宣伝として、すぐれたデザインのものあらわれ、今やパッケージデザインの全盛時代を迎えている。

生徒にパッケージデザインの意義や価値をきいてみると日常生活のあらゆる面に利用されているため、空気と同じようにみられ、意外に関心の薄いことが知らされた。そこで生徒の日常生活と密接な関係にあるパッケージを新鮮なアイデアでデザインをさせることにより合理的な構造、視覚的な効果、宣伝性や展示効果などを学習させ、造形的思考や技術を育てたい。

2. 題材のめあて

限られた条件のなかで、使いやすさ、美しさを追求させ立体のもつ多面的な美を見つけさせる。＜アイデア開発と

5. 本時の展開

	指導・ねらい	学習活動	指導の留意点
導入	1. 時間のまとめ 2. いれもののデザインのだいじなことのおさえ	・いれもののデザインは、どんな共通性があるか確認する。	・本時の学習のめあてをつかみ準備態勢をととのえさせる。
展開	3. アイデアスケッチ(立体)によりアイデアをふくらませる。 4. アイデアスケッチ(立体)をくり返して、テーマにせまる。	・機能的で親しみのもてるいれもののデザインをする。 ＜条件＞1枚の紙のりづけの箇所が少なくすむ形を考える。 ・アイデアスケッチ(立体)のくり返し・同じテーマ、同じ材料で異った構成表現技法でくり返し、アイデアスケッチ(立体)する。	・構造に重点をおいて扱うようにさせたい。 ・ちよつとした着想でも、すばらしいアイデアにつながることを気づかせたい。
整理	5. よいアイデアについて考える。	いろいろな傾向の作品を提示し話しあう。	・友だちのアイデアのよさを見いださせたい。

第20回旭川大会 (昭和45年)

黒い紙との対話

北都中学校 46名
指導者 築山 尚明

1. 題材について

今までに数多くの版画を作り、作品を観てそれぞれの特性等も幾分か理解されて来た。多色刷り版画は技術的にも高度であるが生徒には興味深いものである。身近なものの中から今までとは違った版と、黒い紙との対話により、その興味を幾分満足させながら長時間の造形過程を意欲的に取り組ませ版画の興味を一層深めたいと思う。線彫りと言う最も基礎的な彫りと輪かく線による色の配置・スケッチを基に構想を練る等の基礎的能力を着実に身に付けさせ、意図が的確に表現出来るようになる事によって、生徒の造形能力は高められてゆくと考えている。

2. 題材のめあて

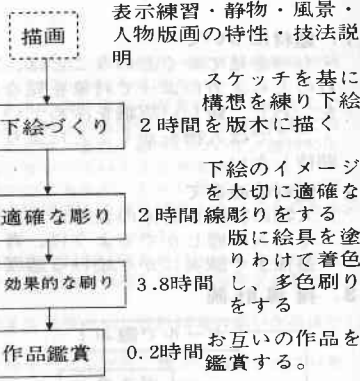
- ・版画の表現形式と技法や効果を理解させ、版画の興味を深めさせる。
- ・技術的に抵抗の少ない簡易多色版画を経験させ、生徒の興味を醸成させ、意欲をもち上げ計画的に仕事をする態度を養う。
- ・描画と興った美しさを発見させ、表現を工夫して創造的できいきした作品をつくらせる。

3. 指導計画

5. 本時のながれ

指導のねらい	学習活動	指導の要点
(導入)	・前時の学習の結果について話し合う	・前時の反省点を気付かせる 絵の具のつけ方 パレンのこすり方
・本時の内容・手順を確認する	確認 本時の内容、手順を確認する	
(展開)	・効果的な刷りをさせる	刷り 前時に引き続いて着色し刷る
・部分的に不適當なところを発見させ修正させる	検討 作品を検討し修正する点を見出す 修正 修正する	・イメージに合った色調を考えさせる ・地色、重色、配色の効果、線の構成 全体と部分の調和を更に検討させる
	完成 できた作品を台紙にはり展示する	・台紙のはり方を知らせる。 ・イメージが表われたかを鑑賞させる
	展示 作品を鑑賞する	・重色や地色を生かす効果に気付かせる
	鑑賞 工夫したところ等を発表し、ねらいが生かされたかを話し合う	・生活への応用に気付かせる。 ・計画的に作業が進められたか反省させる。

次時予告



4. 本時のおさえ

- ・黒い紙を生かした多色刷り版画の美しさを知り、効果的な表現を工夫し、いきいきした作品をつくらせたい。
- ・最初のイメージを持続させ、計画性を持って作業を進める態度を身につけさせたい。

第20回旭川大会 (昭和45年)

ふしぎな花

旭川市立啓明小学校43名
指導者 朝倉 るみ子

1. 題材について

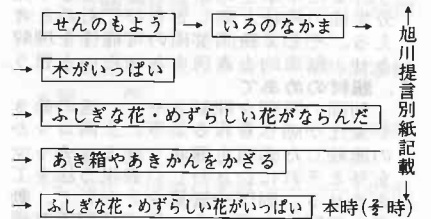
子どもは1年生のデザイン学習によって、描く模様、はる模様等、多くの色を使って自由に模様作りをすることができるようになってきている。2年生としての教師の目ざす方向や願いは、子どもが生活体験の中から得たヒントや新発見によって、それを使い、表現する楽しさや喜びを感じさせ、**並べ方をくふうしたり形の変化を考えたり、与えられた条件に適したアイデアがうかぶようになったり、描く・塗る・切る等を適切に美しく表現できる子どもになるよう。**>こどもの素直な日常の造形活動を通して感覚的に表現する能力を身につけさせるよう目ざしたい。模様作りは、いっばい描がせれば模様になる要素は多分にあるが、同一のパターンをいっばい並べる模様において描く模様はかなりの根気が必要とした。ここでは<花><魚><虫>等同一のテーマであればどれもよいが、子どもの希望から、身近にある花のテーマをとりあげた。同一テーマの中で1つずつパターンを違えて表現させることによって<こんな花があったらいいなあ><この野山や畑にも咲いてな

くて、お花屋さんにも売っていないふしぎな花やめずらしい花を作るんだ>という表わすことへの願いや期待にあふれた子どもたち、発展として、ここでの指導は各自創作した花を持ちよってみんなで力を合わせくいっばい並べる>という共同作業を通して目ざすものに近づかせたい。

2. 題材のめあて

- (1)いろいろな素材を使って独創的な花を創作させる。
- (2)グループで協力し合い決めた配列に画面構成させる。

3. 指導計画



4. 本時のおさえ

独創的な花(ふしぎな花やめずらしい花)をグループで決めた配列で共同で台紙にはり画面構成させる。

5. 本時のながれ

分節	与えるもの	学習活動の経路	ひきだすもの	おもな教師の発言・助言
準備	・準備用具の確認	本時の学習手順を知り見とおしを立てる		・使うものがそろっていますか。創作した花・糊・新聞紙・手ふき・クレヨン・カラーペン・色紙・画用紙・はさみなど。
5	準備条件提示	・創作した花を協力して台紙に並べはることを知らせる	・グループで選んだ形の台紙にいっばいの花を並べることを意識する。	
		・パネルに掲示してある台紙をグループに配布。		
	構想	・グループごとに相談させる。	・花と花との重なりぐあいをくふうしてはる。	条件
	表現	・花を台紙にはらせる。		台紙の形、花の大きさ、色などを考えて並べてみましょう。
35		・完成したらパネルに掲示させる。		平らに描いた花は先に、とび出した花は後に糊づけしましょう。
	鑑賞	・友だちの作品を見て、そのよきを見出させる。		・どう思いますか。

第22回帯広大会 (昭和47年)

森の詩

帯広柏葉高等学校 18名
指導者 中谷有逸

1. 題材について

版画の種類や、その表現効果の特色を理解し、制作することにより、版画制作・鑑賞への興味や関心を高め他の表現分野にも幅をあたえ、新しい可能性をさぐる手がかりにもさせたい。

また構想による表現をするとき、とかく表現技術の未熟さから、文学性のみが先行し、絵画としての造形性の質的なたかまりを伴わないことが多いが、版画は、技法の特殊性から、形態や色彩に自ら制約が加わり、それが造形上のきびしさとなって質をたかめたり、また、刷りについて、版材の生む、何ものにも変えがたい材質感の魅力が、作品の魅力にもつながっていくことが多い。

このように版画は、構想的表現にずいぶん適した側面を持つのであるが、しかし逆に、この点に版画の大きなおとし穴のあることもたしかなことで、指導には十分留意しなければならないことである。

2. 題材のめあて

版画作品が完成するまでには、少なくとも、デッサン(発想)・製版・刷りの三つのちがった作業を経なければならない。したがって、初めの感動を持続させ、計画的に表現していく態度が必要となる。

また、版の表現効果の特性と作者の個性や表現の狙いをうまく合致させなければ質の高い作品はできない。これからのことを体験的に学ばせながら、生徒の創造性をひきだしながら、豊かに構想させていきたい。

3. 指導計画

版画について	(1時間)
版種とその表現効果	
構想をねる	(2時間)
テーマの解釈・アイデアスケッチ、資料の収集	
エスキース制作	(2時間)
版の表現効果の理解、刷りの体験	
構想を深めデッサンする	(3時間)
版種や版材の表現効果を考慮し構想をまとめる。	
版下をつくる	(1時間)
トレーシングペーパーにデッサンを転写する。	
製版	(4時間)
版材の決定、加工法の工夫(形どり、はりつけ、はぎとり、ボンドの使用など)	
刷り	(2時間)
試し刷り、修正、本刷り	
鑑賞	(1時間)
計	(16時間)

4. 本時のおさえ

- ・刷りの要領を体得する。
- ・インクのふきとりや、版材の表現効果を理解する。
- ・版の表現効果を生かして自分の構想を深めていく。

5. 本時の流れ

指導のねらい	学習活動	指導上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習内容と仕事の手順の確認 ・エスキースを刷らせ、インクのふきとり版材、加工法などの効果をたしかめさせる。 ・版の表現効果を理解させ、各自の構想を深めさせる。 ・次時予告 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習内容・手順・意義を理解する。 ・インクのふき方に工夫して3枚刷り。刷りあがった作品を見て、この版の表現効果の特徴や版材、技法の効果を理解する。 ・テーマを再認識し、版の表現効果を生かしながら構想を深めさせ、デッサンする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3枚刷るときには、インクのふき方に変化をつけさせる。 ・この版種での表現の可能性を更に追求する態度も忘れずに。

第22回帯広大会

笛をふく人

稲田小学校 4年43名
指導者 高橋ミチ

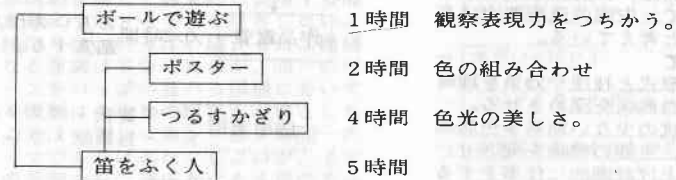
1. 題材について

- ・ものを見てかくということは、写しとることを身につけるのではなく、児童それぞれのとらえ方によって対象を見なければ価値がなく、見ることによって今までの概念をこわし、新しい認識を深めていくところに、ものを見てかく意義があると思う。
- ・ここでは人物をかくことにより、主体的な人物のとらえ方、人物の認識の深まりを期待したい。

2. 題材のめあて

- ・人物の特徴を身体の姿勢から、服装から、環境からとらえるようにさせる。
- ・その人の感じがでるように、考えながら絵をまとめるようにさせる。
- ・最後まで誠実にかき続ける態度を育てさせる。

3. 指導計画



- ・教科書の作品を見ながら話し合い予定を立てさせる。 _____
 - ・グループでモデルを決めスケッチさせる。 _____ 1時間
 - ・スケッチに従って下絵をかかせる。 _____ 1時間
 - ・下絵に彩色させる。 _____
 - ・友だちの作品を見てよさを認めあう。 _____ 3時間
- (本時) $\frac{5}{5}$

4. 本時のおさえ

- ・かいた人の特徴をうまくとらえて、絵にまとめさせる。
- ・筆の使い方、色の出し方に注意させる。

5. 本時のながれ

時間	あたえるもの	表現活動	ひきだすもの
5	準備	・画板、水彩えのぐ、筆、竹ペン、墨汁 ・筆の使い方や、色の出し方が工夫されているかを確かめながら仕上げの彩色をすることを知らせる。	・前時にかいた絵について話し合う。 ・絵全体の色の調和を考えさせる。
10	条件構想	・混色や、色の調和を考えながら、笛をふく人をひきたてる色を見つけてさせる。	・仕上げの彩色をする工夫。 ・笛では表現されないこまかいところを線で表現する工夫。 ・細かいところまで表現することができると効果的な線を考えさせる。
25	表現活動	・パレットや筆がきれいであるか確かめる。 ・彩色に必要な色を豊富にだしておく。	・自分の構想に従って仕上げの彩色をする。 ・こまかいところを線であらわす。
10	鑑賞	・グループでよい絵を選びみんなに見せる。	・自分の考えがあらわれているか確かめる。 ・友だちのよさを認めあう。

室蘭市立大沢小学校 第4学年36名
指導者 佐藤光雄

1 教材観

わがクラスに例を見るように、4年生というのは、徐々に、物事を客観的に見ようとする時期である。春の写生会では、対象に迫って客観的に見つめて表現しようとはしているが、表現力が弱いので、自分の見方、考え方に自信をなくした、投げやりな作品が少なくなかった。

このような児童には、まず、対象からの自分の感じ方と、対象への自分の考えを深めさせると同時に、自信を持たせることが大事である。

そこで、自分が感じ、考えたことに自信を持ち、安心して表現できる活動に慣らしてやりたいと考え、お話の絵を取り上げた。そして、お話から得た感動と、自己の生活経験をかかわらせながら、主題をイメージ化して自己表現することにより、一人ひとりが、力いっぱい表現したんだという自信をつけさせてやりたい。このことが、より深い感情や心情をはぐくむことにつながるであろう。

お話には、現在、大気汚染になやんでいる児童自身が主人公になるように仕組んだ。また、本題材で、効果的な画面構成と、色の概念性にこだわらない造形美を、児童に発見させたい。

また、ひっかき絵は、今まで経験したことのない学習で、このひっかきという活動が、手や腕に快い手ごたえとなって、造形表現をいっそう刺激し、意欲的な取り組みができるだろうと考えた。

2 目標

- (1) お話の主題に迫りながら、受けた感動を場面として想像することができる。
- (2) 想像した場面を、描くことによ

て確かめ、内面感情を高めることができる。

- (3) ひっかき絵を通して、効果的な画面構成と色の発見ができる。

3 指導計画

- (1) スクラッチペーパー作り…1時間
ア 八つ切の白ボール紙に、明るい色のクレヨンを任意にぬる。ぬり方は強くていねいに。
イ 夜を感じさせる色(黒・群青・焦げ茶・紫等)を1色選んで、アの紙の上にぬる。下地の色が見えなくなるように、強くていねいに
- (2) 構想と表現………2時間(本時½)
ア テープを聞いて、お話の場面の確認とふくらましをする。
イ 描く場面を決定し、画面の組み立てを知る。
ウ 効果的なひっかきを知り、くぎやドライバーでスクラッチペーパーに表現する。
- (3) 表現と鑑賞………1時間
ア 作品を完成させる。
イ 友だちの作品を見て、よく表現できているところをほめ、ひっかき絵で、楽しかったこと、よく表現できたところ、むずかしかったところなどの感想を話し合う。

4 本時の指導

- (1) 目標
ア お話を聞いて、感動した場面を想像することができる。
イ 想像した場面を、効果的な画面構成として決定し、表現することができる。
- (2) 準備
スクラッチペーパー・くぎ・ドライバー(それに代わるものとして、スプーンや彫刻刀) 新聞紙・布切れ・クレヨン

第23回室蘭大会

『月の夜』

指導者 佐藤光雄

ぼくの家は、空気の澄み切った小高い丘の上にある。父さんが、森林を管理する仕事をしている都合で、2年前にこの村の出張所に引越してきたのだ。

前に住んでいた、ごみごみした町の様子に比べると、ここは、まるで別世界のようなんだ。

学校への道は遠いけれど、それは平気さ。なぜって、途中、緑のおい茂った森の中で、美しい声で鳴く小鳥たちや、道にそって、色とりどりに咲き乱れる花々が、ぼくの友だちなんだから。

今夜も明るい月夜だ。ぼくは家の外に出て空をながめがめている。あたりは、すっかりやみにつつまれ、昼のあいだ、あんなに楽しかった森の中も、ひっそりと寝静まっている。ぼくの背たけの十倍もあるかと思われる高い木が、何本も何本も空いっぱい枝をのぼしているんだ。そして、その森の上に、大きな満月が、ポッカー顔を出している。星もいくつか、チカチカ輝いている。月の光で、町へ通じている一本道が、白く明るく照らされている。はるか遠くに、町のあかりが、いくつも見えるんだ。

ぼくが今立っている大木のごずえで、ふくろうだけが、「ホー、ホー」と鳴いている。けさ、町へ出かけた父さんの帰りを、知らせてくれているのかな。約束したおみやげを、父さんは忘れていないだろうか。

ふくろうよ、おまえのその大きな目で、父さんの姿が見えないだろうか。

第23回室蘭大会 タンポポになって

—アニメーション—

室蘭市立鶴ヶ崎中学校 第1学年40名
指導者 本多正機

1 題材について

公害のはげしい室蘭市の中でも、もっともその影響を強くうけている本校工場群のすぐ近く一輪西町)校下では、子供達と自然との結びつきは他地域と比較して、より弱いものと思われる。

家庭や学校の花壇等を別とすれば、子供達の周囲には立木のほとんどない、草花もあまり咲かない殺風景な丘陵が続いている。その中でわずかに初夏にそこそこに黄色い色紙をちらばせた様に咲くタンポポがわずかに殺風景な空気をやわらげ、我々の目をたのませてくれている。

しかし、その小さな、生命力のあるタンポポもあまり子供達の注目を引いている様子はないが教材としてとりあげ、日常生活の中で見過している事に気づかせ、真剣に見つめさせる機会を与える事により、その美しさ、生命力の強さに新鮮な感動を呼びおこし、自然に対する新鮮な愛情を抱くものと思われまます。

一方アニメーションは中学一年生という発達段階の中で子供達の多様なイメージをふくらませ、映像化し、時間や空間を多面的に表現できるという点で、子供達にとってより取り組みやすい教材と思われる。

またデザイン学習の中の1つ1つの教材を単独のものとして考えず、有機物、発展的なつながりを持たせ、このアニメーションの学習の中で1年生のデザイン学習の総まとめとしたいと考えています。

2 目標

(1) 自然に対して新鮮な目を向け、自然の大切さと自然への愛情を深める。

(2) 自由なイメージをふくらませる中で楽しさを味わう。

(3) イメージを映像化する能力を身につける。

ア 拡大 イ 縮小
ウ 単純化 エ 構成

3 指導計画

- (1) 構想と表現…… 2時間(本時 2/3)
- (2) 表現……… 3時間
- (3) 観賞……… 1時間

(1)はアイディアスケッチの前にグループでの話し合いをし、イメージをたしかめよう。

(3)の観賞は合評会形式をとりお互いに批評をしあい、評定の素材にもつかう。

4 本時の指導

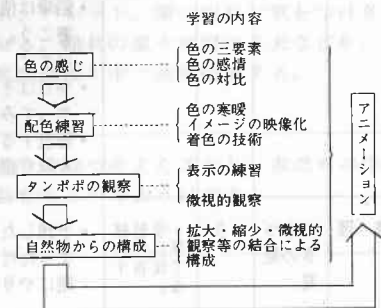
(1) 目標

これまでのデザイン学習で学んだ事を生かしアニメーションのイメージをふくらませ、画面構成をどうしたらよいかを考え、イメージの映像化をはかる。

(2) 準備

スケッチブック・ペン・墨汁・教科書副読本・ワク取りしたケント紙・参考作品。

※ 本教材までのデザイン学習の流れ



(3) 展開

学習の道すじ	学習内容	時間(分)	学習活動	主な発問と助言	児童の反応と方向づけ
イメージの形成	主題の確認	15	<ul style="list-style-type: none"> ・お話の絵をかく事を知る ・テープを聞く ・場面の確認とふくらまし 	<ul style="list-style-type: none"> ・これから、「月の夜」という題のお話の絵をかきます。しつかり聞いてください。 ・お話の様子と、出てきたものについて話し合ってみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな内容のお話かな。 ・静かに聞く。 ・楽しい星の森のようすを発表。 ・寝静まった森のようすを発表。ぼく。小鳥。花。大きな満月。星。ふくろう。大木。一本道。町のあかり。
造形の思考	課題の追求	15	<ul style="list-style-type: none"> ・何をどう描くか、画面の組み立てを知る ・描きたい場面を決定する 	<ul style="list-style-type: none"> ・お話に出てきたものをどのように描くか話し合ってみよう。 ・森や山の表現は。 ・一本道は。 ・大木の感じを出すには。 ・ふくろうはどこにかく。 ・「ぼく」はどうする。 ・大きな満月と星は。 ・もう一度お話を聞かせますから、森の様子を想像して、かきたい場面を決めるように。 	<ul style="list-style-type: none"> ・木をたくさん。曲がった木まっすぐな木。細い木。太い木。 ・とんがり山。おもしろい形の山。 ・まっすぐ。まげて。長く。 ・太く。高く。 ・大木の上。少しむずかしいけど。 ・入れない。入れる。立っている。 ・かんたんだ。画面の上に。 ・前より楽な気持ちで聞いて想像し、描きたい場面を決める。
表現		15	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的なひっかきを考えて表現する 	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな種類の線でひっかいていくか考えよう。 ・線のほかには。 ・いろいろな線や面でひっかいていくと、楽しいだろうな。 ・ぐいぐい進めてください。 ・(個別指導) 	<ul style="list-style-type: none"> ・太い線。細い線。強い線。弱い線。直線。曲線。 ・面でけずる。点もいい。 ・楽しみだなあ。早くかきたい。 ・意欲的に進める。
整理	つまづきの発見	5	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の結果について話し合う 	<ul style="list-style-type: none"> ・うまくできたところはどこ。 ・むずかしいところは。 ・友だちの作品も見せてみよう。 ・次の時間も続けます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月。星。……。 ・ふくろう。木。ぼく。……。 ・作品を見せ合う。

第24回美幌大会

牛

美幌町立東陽小学校
第1学年2組37名
指導者 山宮 喬也

1 題材について

これまでの学習では、日常のくらしの中から題材を求めて、主として、経験した事や見た事を説明的に表現する事が多かったが、圧倒的な大きさや重量感、スピード感などから受ける感情的な高まりを表現する場面は、ほとんど無かったといえる。

それに類することとしては、遠足の折に公園に展示されていた蒸汽機関車を意図的に強調して見学させてみたが、帰校後の作品では遠足の情景描写に終始してしまい目的に触れる事はできなかった。

今回も再び展示してある蒸汽機関車を取り上げてはどうかと考えたが、既に動くことを忘れてしまった「置き物」の蒸汽機関車では目的とする感情の高まりは望めないと考え、自らが動く意志を持ち、かつ重量感の溢れている牛を取り上げてみようと考えた。

しかし、農村に囲まれたこの地域の子ども達ではあるが、校区が市街地という事もあり、更に、近隣の農家にあっても、牛を飼育する農家が少なくなどから、子ども達が牛に接触する機会は非常に少なく、教室にあって、経験をもとに表現するという事は不可能に近いことを考え、全員を農場へ連れて行き、実際に牛を見るときという経験の中で目的を達したとい考えた。

2 学習の目標

牛の持つ大きさや重量感を感じ取りながら表現させる。

3 指導の計画

牛を観察しながら、感じたことも加えて表現する。 2時間
かき足りない部分を補って仕上げる。友だちの作品を見る 本時

4 準備

絵具（個人用・共同用）筆、クレヨン、フェルトペン、筆洗い、新聞紙、その他

5 本時のながれ

	ながれ	学 習	留 意 事 項
導 入	学習内容の確認	<ul style="list-style-type: none"> 前時学習の想起 本時学習内容の確認 注意事項の確認 	本時につながるように想起させる。 本時の作業をはっきりさせる。
展 開	かき加えて完成させる	かき足りない部分を補う	水、パレット、筆の汚れに気をつけさせる。絵具の量や表現の工夫などを、机間巡視の中で個別指導する。
	作品について話し合う	友だちの作品を見る	自分の絵や考えたことと、友だちの作品をくらべるようにする。
まとめ		次時の予告とあと始末	

(3) 展 開

学習の道すじ	学 習 内 容	時間(分)	学習活動	主 な 発 問 と 助 言	生徒の反応と方向づけ
イメージの形成	主題の確認	2	・アニメーションの下絵を作る事を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 今日は前時にかいたアイデアスケッチを整理して、下絵をかく作業をします。 道具を忘れた人はいませんか？ 	<ul style="list-style-type: none"> 道具を確認する。 スケッチブックを開いて、アイデアスケッチを見る。
造形の思考	課題の追求	10	・場面をしぼる。	<ul style="list-style-type: none"> 沢山アイデアスケッチをしていると思いますがその中から、四つの場面をえらんで作品にしたいと思いますので、まず最初と、最後の場面を決め、あとの二つはもっとも自分の表現したいと思う場面をえらんでみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ケント紙を出してみる。 アイデアスケッチの中から四つの場面をえらぶ。 机間巡視をし、個々に指導。
表 現		20	<ul style="list-style-type: none"> アイデアスケッチを検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> みんな四つの場面はきまったねでは次にその四つの場面をもう少し検討してみよう。なおしたい所はどんだんおして行こう。 前にタンポポで平面構成をした時の事なども思い出してみよう。 たとえだ…………… タンポポが育って行く時の考をもう一度考えてみよう。色々な事があるだろうね。 たとえば…………… 	<ul style="list-style-type: none"> スケッチブックにワク取りをしてスケッスをねりなおす。 机間巡視 前のタンポポの構成やスケッチを開いてみる。 タンポポのまわりの、天候などの自然現象・人・動物等について考える。
		15	<ul style="list-style-type: none"> ケント紙に下絵をかく。 	<ul style="list-style-type: none"> だいたいまとまったね。では1番目の場面からかいてみよう。 鉛筆は使わずにペンですぐに書こう。やりなおしは出来ないぞ！ 今日はそれぞれ出来る所までやってみよう。 着色することも十分考えながら取り組もう。 	<ul style="list-style-type: none"> 机間巡視。 鉛筆での下描きができないので抵抗が多い。慎重になる。
整 理	つまづきの発見	3	<ul style="list-style-type: none"> 学習結果について反省する。 	<ul style="list-style-type: none"> 予想したものはうまく、おさまっただろうか、続きは2学期にやります。 	

6 展 開

学習の道すじ	学 習 内 容	時間 (分)	学習活動	主な発問と助言	指導上の留意点
イメージの形成	主題の確認	5	学習内容の確認	<ul style="list-style-type: none"> 目をつぶってごらん、何の音だろう。 粘土を、かため、焼くと音がする。素ぼくな音です。 素焼と土のすず 	<ul style="list-style-type: none"> 今日は何を製作するのかと期待をもたせ学習の概略を把握し、みとうしをつくる。
造形思考	課題の追求	10	製作の手順を知る	<ul style="list-style-type: none"> どうすると良い音がでるか 作業の手順 良い音 よい心 良い音 アンコ作り (中抜) 	<ul style="list-style-type: none"> 図表により製作順序を明示する。
表 現		30	製作活動	<ul style="list-style-type: none"> 芯の玉を包む紙の厚さが空洞の大きさをつくる 肉の厚さが過ぎると軽い音が出ない。 外形の成形は手早く指先で粘土のかわかないうちに行なう わり口の大きさが音の反響に意味がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 粘土の厚さが一定であること、外形が球形に近いこと 机間巡視 アイデアスケッチ 紙がぬれているので粘土のかわきがおくれる 生徒の家の廻りの土が入っている。私の土であることを確認する。
整 理	つまづきの発見	5	製作終了作品の完成への期待	<ul style="list-style-type: none"> 作業手順、作品を大事にあつかい良い音がでる事を期待する。次回の音くらべ大会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> 教室用具の始末

第24回美幌大会
土のすず

小清水中学校 第1学年45名
指導者 横 田 勇 吉

1 教材観

人間が土との素ぼくなふれあい、それから生まれた数々の作品、土器・はにわ以来日本人の生活と焼き物は切り離せない。工夫された日常の什器類への生活の知恵と、それを作った工人の美意識、それは郷土の生活に密着しながら長い歳月に磨かれて造形的にも美しいものとなり今日にも生き続けている。それは私達の祖先のあるいてきた歴史である。そしてそれを今、生徒に土と火と手という素ぼくで原始的創造活動をさせることは、科学文明の渦の中に生きる生徒たちに人間らしさを取りもどさせる手口になるのではないか。粘土は最も造形の容易な材料であり、火をくぐることで素ぼくで美しいものにかわることを理解させ、一塊の粘土から自由な発想と作る喜びを、使う楽しさを与えたい。

2 目 標

- (1) 粘土 → 焼きものに興味をもたせ理解させる。
- (2) 手作りの楽しさを知らせる。
- (3) 土と生活のむすびつきと先人の生活から生みだされたことを知らせる。
- (4) 製作の完成や使用の喜びを味わわせる。
- (5) 粘土の性質を知らせる。

3 指導計画

- (1) いろいろの陶磁器を見て陶磁器の正しい概念を理解させる。 1時間
 - (2) 焼きものづくり方を理解する。手びねりを技法の中心に 5時間
手びねりは広い意味で型やロクロを使わず手で作る方法をいうが、ここでは、せまい意味で、ひもも板も作らず、まるめた粘土から成形することをいう。
- 本時宛時間

4 本時の目標

- (1) 粘土 → 焼き物に興味をもたせ理解させる。
- (2) 粘土を焼いて素焼のふる音のねに素ぼくなよろこびをしらせる。
- (3) 手作りの楽しさをしらせる。

5 準 備

参考作品、粘土、芯玉(素焼)、新聞紙、粘土ペラ、チリ紙、スケッチブック

5. 本時の展開

過程	学習内容	時間	教師の活動		児童の活動
			主な発問・演示・指導の助言	板書・資料	期待する思考々発見等
導入	1 前時の学習内容の確認、用具の点検 2 今日の作業の手順とめあて 3 強調したいところをきめる	10分	1 今日の学習に必要な用具はそろっていますか。		1 学習に必要な用具、みじたくの点検
			2 前の時間はどこまで仕事が進みましたか。		2 前時の学習内容をふりかえる。
			3 今日はどういう仕事になるのかな。	顔の表情がよくわかるように工夫してつくり	3 本時の課題を発見する。 ・細かな所に気をつけて ・表情がわかるように
展開	4 肉づけをして表情を出す	35分	4 普通の顔から、表情のはげしい顔に変えると、どんなふうになどこが変ったろうか。	目・口・ホッペタ・あご・まゆ毛	4 発表 ・まゆげが上がる、下がる、ホッペタがもり上る……
			5 鏡をのぞいて、自分の考えた表情をしてみよう。	強調したいところ	6 本時の作業のポイントをつかむ
閉	5 本時の反省 6 次時予告	5分	7 どんな表情かわかるように肉をつけたり、とったりしていこう。粘土ベラのつかい方も工夫しよう。	粘土ベラのつかいかた。	7 意欲をもつ
			8 机間巡視 ・作品を横からも見るよう指示 ・シワ等のこまかな所も気を配らせる。 ・全体のつりあいを見させる。		8 表情がわかるよう工夫する。粘土ベラのつかい方を工夫する ・鏡を見てたしかめる ・友人にも見てもらう
整理	9 自分の作品についての感想を発表してみよう。(満足、努力、苦心等) 10 次の時間は、みんなで作品を鑑賞しましょう。				9 感想発表 10 次時への意欲をもつ用具等 あとしまつ

第25回江別大会

おもしろい魚の
絵はがきをつくろう

江別市立大麻小学校第4学年42名
指導者 綱 瀧 敏 幸

1. 題材観

児童をとりまく環境のほとんどは、商業主義にのった既成の色や形によるもので、特にここ大麻地区は札幌のベッドタウン、典型的な団地であり画一的な生活環境が特徴のひとつとなっている。

しかし、児童は珍しいもの、変わったものへの興味、あるいは色や形への興味・関心がますます深くなってきつつある時期にある。

そこで、前の学習ではリング、ミカン、タマネギなどの自然の形から、新しい形をつくり変える作業(便化)を通して、豊かな発想を育てようと試みた。

今回は一歩進めて、新しい形を自分なりの発想でつくり出させようと考えている。

ちょうど、三年生の国語教材「深海にすむ魚」の学習において、初めて知る魚の種類、あるいは生態に対する関心は一段と高まり、図鑑などの利用度も多くなってきた。ここにヒントを得て、まだ見ぬ「空想の魚」、「気持ちよく泳ぎまわる魚」を絵はがきに、自由にのびのびとデザインさせ親しい友、あるいは父母へ季節の便りとしておくる楽しみを通し、より豊かな発想と想像力を高め自ら創り出そうとする力をつけさせようと考え、この題材をとりあげた。

2. 指導目標

- 1) 自由な発想で、単純化した魚の形やまようを想像豊かに創らせる。
- 2) 魚の配色から台紙(絵はがき)の色を選び、かつレイアウトすることにより、基礎的な構成についての理解や色彩感覚・配置の能力を高めさせる。
- 3) 色や形を使った学習を通して、自ら生み出すことへの興味やよろこびを持たせ、さらに季節の便りとして親しい友や父母へおくることに、使って楽しむ態度を育てる。

3. 指導計画 (5時間)

- 1) 絵はがきにするまでの手順の理解といろいろな形をした魚のアイデアをまとめる……………(2)
- 2) 小画面にデザインした魚をかき、サインペン・絵のぐで線やまようを入れる……………(1)
- 3) 魚に合う台紙を選び配置配置を決める……………(1) 本時(1)
- 4) 絵はがきつくりと鑑賞……………(1)

4. 本時の目標

- 1) 魚の配色との関係から、それに合った台紙の色を決定することができる。
- 2) 台紙の中で魚が最もひきたつ配置を考え、置くことができる。
- 3) 配置決定の後、台紙と魚の関係から加えることがあれば線描で入れることができる。

	[与えるもの]	[ひき出すもの]
(発想)	・いろいろな形や色の魚の鑑賞	・自由でおもしろい形の魚ともよう
(構想)	・色数の制限(4~5色) ・絵はがきの形式と台紙	・美しい配色 ・魚を生かした画面の使い方と位置 ・台紙の色
(技法)	・サインペン ・えのぐ	・形をひきたたせるための線や色の使い方

5. 本時の展開

過程	学習内容	時間	教師の活動		生徒の活動
			主な発問・演示・指導助言	資料機器	
導	学習のめあてをつかむ 物の見方 美しいポーズ	10分	<ul style="list-style-type: none"> 先週の練習をふり返って、もう一度、学習のめあてを確認しよう。 モデルに似た感じはするけれど正確でない例と、正確な例を比較しながら、これから勉強するのはどちらだろうか。 正確に見て表現するためのもの見方はどうするのか 半身像の中で占める、頭の大きさうでの太さ、手の大きさはどの程度だろうか。 参考作品を示し、手が効果的に使われた美しいポーズだろうか。 	参考作品 鑑賞作品	<ul style="list-style-type: none"> マンガ的な表現は形が誇張されている。 正確な表現は全体と部分の大きさの関係が自然である 部分にとらわれず、全体と部分の大きさを比較しながら物を見ることが出来る。 大まかに形をとらえる方法を知る。 両手が見えていない。 不自然である。 手にも表情・感情がある。
入	効果的な構図		<ul style="list-style-type: none"> 画面構成について、これらの表現はどうだろうか。 次の方法もとり入れよう 画面の外へ出てもよい可能な範囲 デッサンのための手順の確認 		<ul style="list-style-type: none"> 全体に形が小さすぎる。 版方へよりすぎている。 今日のポーズと画面構成を考える。
展 開	人物デッサン	35分	<ul style="list-style-type: none"> ポーズをきめさせる 大まかに全体をつかませる 		<ul style="list-style-type: none"> 美しいポーズをきめる。 全体と部分の大きさを考えながら大まかに形を描く
整 理		5分	<ul style="list-style-type: none"> 画面にうまくおさまったかどうか 次時予告 		<ul style="list-style-type: none"> 消して、やりなおしの必要がないか考える。

第25回江別大会 (昭和50年)

両手の見えるポーズ

江別市立第三中学校 第1学年38名
指導者 手島圭三郎

1. 題材観

中学1年の描画は理性的、客観的表現へと移行しつつある年代で、自分で表現しようとするものが、ある程度表現できなけれど、描画に対しての意欲が失なわれてしまう年代である。人物表現を通して、客観的表現の最も初歩的なねらいとしての、物の見方と画面構成を理解させ、表現力の基礎をつけさせたい。また人物表現は、構想表現、彫塑、デザインの関係にも密接で、表現が深まることは、すべての領域のレベルをたかめることに通じるので重視したい。

表現にあたっては、全体の中での部分と大きさ形を、比較しながら観察するため、両手がかならず画面の中に入る上半身である条件を設定し、人物が美しく見えるポーズを、いろいろ工夫させながら、上半身のうち、頭の大きさと手の大きさ、うでの太さ等、全体の大きさと、各部分の大きさを、絶えず比較しながら見る、見方を学習させる。

画面構成も、造形要素をふまえて、画面に対して表現する人物の大きさの関係や、画面外へはみ出す部分の関係も考慮させたい。さらに、おたがいが、モデルになりあう学習態度を身につけさせ、日常生活の中での観察、表現されたものへの関心を深め、鑑賞へと発展させたい。

三年間の人物表現の、たてのつながりを次のようにおさえる。

- 1年 「両手の見えるポーズ」 (半身)
- 2年 「動きのあるポーズ」 (全身)
- 3年 「自画像」

	与えるもの	ひき出すもの
(発想)	<ul style="list-style-type: none"> 部分を誇張した表現と 正確な表現のちがいを。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察のしかた 表現のねらい
(構成)	<ul style="list-style-type: none"> 画面と表現するもの大きさの関係 良いポーズ 	<ul style="list-style-type: none"> 全体と部分の比較 手の位置と形
(技法)	<ul style="list-style-type: none"> 表現のための手順 	<ul style="list-style-type: none"> 全体の把握 モデルの観察

2. 指導の目標

- 両手の見えるポーズを表現することによって、部分にとらわれず、全体の中での部分として比較しながら物を見る力をつけ、表現力をたかめる。
- 画面と表現するもの大きさ位置等の、画面構成への配慮をたかめる。
- 人体の持つ美しさと人物画への関心をたかめさせる。

3. 指導計画 (6時間)

- 表現のねらいの理解と練習 2
- デッサン (1/2本時) 2
- 彩色 2

4. 本時の目標

- 全体と部分の大きさの比較をしながら、人物の形を画面におさめることができる。
- 両手の位置が適当で、美しいポーズをきめることができる。

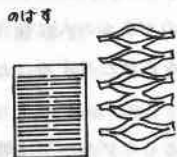
中 1

紙でつくる

「動くしくみを利用した案内状」

授業者 光陵中学校

加藤 勉

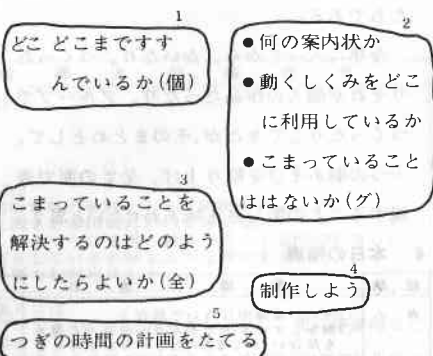


●構想をねる..... 2

- 案内状の種類
- 形
- 動くしくみを利用する場所

●試作する..... 2

- 試作...1.構想をもとに全体の形をつくる
- 試作...2.本時 (6/10)



●制作する..... 4

授業へのねがい

どのような教材であってもその内容に生徒の興味、関心をひきつけるものがなければ生きた授業に結びついていかない。子どもたちにとって遊びは能力のいかんを問わず、我を忘れるほどの魅力をもっているものである。この点から考えれば、教材の内容に遊びの要素をくみあわせることは、いきいきとした授業をくみだてるための重要なポイントとなるはずである。

そこで案内状の制作の中に遊びの要素として「楽しく動くしくみ」をとり入れた。

紙を中心とした素材だけで動くしくみを工夫し、案内状にくみあわせること自体、生徒にとって困難を伴う面も多々あるがこれを克服することもまたあらたな発想の出発点ともなり、造形の喜びにもつながるものと考え。

ながれ — 10時間 —

●オリエンテーション..... 0.5

紙の用途、性質etc

●基本的な動くしくみを知る..... 2

小 6

マジックカード

「パタパタパタ.....
連続変化で何がでてくるかな」

授業者 岩見沢小学校

正岡 辰郎

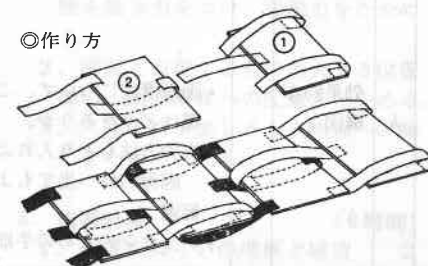
授業の中から

- 1.マジックカードの不思議でおもしろいしくみがわかったかな。
- 1.さあ、しくみを作り、出来上がりを予想し連続的に変化のある楽しいマジックカードになるように絵もていねいに書こう。
- 3.出来上がったマジックカードを互いに見せ合い、連続的な変化のおもしろさを味わおう。

◎材料 用具

- のり ●はさみ ●黄ボール紙 (9cm角5枚)
- 白テープ (11cm12本)
- 絵の具 ●フェルトペン ●ものさし

◎作り方



授業へのねがい

「自分の手で作り出す喜びを忘れたというよりは、既製のがん具やセット工作によって作り出されたものを遊びだと信じて疑わない現代っ子は、はたして“遊び”に満足しているのでしょうか。

その疑問から、忘れかけた伝統的な遊びにふれさせ、そのしくみや変化を求めらる中で、そのよさを伝えよう心がけています。

子どもは、初めてその不思議さに興味を示しながら、自らの手で作り出す楽しさ、おもしろさを味わいながら、目をかがやかすのです。

マジックカードはその一環としておさえ、連続変化の楽しさを現代的な感覚で発想の意外性を求めています。

さてほんとうに意外性がどうとび出すかは見てからのおたのしみ!!



“クル、クル、アニメーションノ”

絵のかきかた、まちがってないかな”

うごくおもちゃをつくる

札幌市立伏見小学校 3年41名
指導者 長津喜代

1. めあて

- ゴムの弾力を利用し、同じ条件で動くものを作らせ、手作りのおもちゃを動かす喜びを味わわせる。
- ゴムと糸の作用を理解し、動きに合った形をくふうさせる。
- よく動くように、固定する部分とゆるめる部分をくふうさせ、たしかめながら作らせる。

2. 指導にあたって

おもちゃは子どもの友だちである。それが動くものであったり、動かすことのできるものであれば、興味はなおさら倍加する。まして自分で作ったものが動くとなれば、驚きと同時に作ることへの自信を深める好材料になる。機構的な工作といっても、この学年ではそれほど複雑な仕組みは要求しないが、その基礎を

5. 指導過程

次	授業目標の要素	学習活動	指導上の留意点
1	糸を引くとゴムばねが伸びて動くしかけを理解させる。 条件をとり入れたおもちゃを考え、簡単な図にかいた材料用具を準備させる。	○基本型であそぶ ○動くしかけの条件を知る。 ○おもちゃ作りを計画する。 ○材料用具を準備する。	○基本型 ○計画図は ●個別資料の資料とする。(問題点チェック) ●上図を計画用紙にかいて与える。 ●しっかりつける所と動きやすくする所のしるし。 ●何をしているか解るような形にする。 ●必要な材料用具もかく。
2	動くしかけを丈夫に作らせる。	○動きのたしかめをしながら、しかけを作る。	○よく動くには ●ゴムや糸のむすび方をきちんとし、更に接着剤などで固定する。 ●糸の通りをゆるやかにするために、穴の大きさや方向をくふうする。
3	動きに合った形をくふうさせる。	○外形を作る。	○外形は ●目的のある動きが見えるデザインにする。 ●たのしくなる形にする。
4	自分で作ったものの良さを評価させる。	○みんなで動かしてあそぶ。	○あそびで ●友だちの作品をこわさないようにして動かす。 ●おもしろいおもちゃをほめてあげる。 ●自分はいくふうしたか、丈夫だったか反省する。

学びとらせるためにこの題材をとりあげた。簡単ではあるが、動きを図示したり、何度も動きのたしかめをして作る態度を育てたい。

3. 指導計画

- 第1次 動くしかけを知り作成の計画…2時間
第2次 機構の部分を作る……………2時間
第3次 外形をととのえる……(本時) 1時間
第4次 作品であそぶ……………1時間

4. 準備

教師 糸、カラーフォーム、厚紙、カッター、はとめ、基本模型、計画用紙、千枚通し、色ソフトペン。
児童 わゴム、筒、箱、かまぼこ板、わりばし、糸、厚紙、カッター、接着剤、セロテープ、色

さかなになろう

私立なかのしま幼稚園 64名

授業者 芝木捷子他2名

1. めあて

- 各自又はグループでつくったものを使用して、表現活動(劇あそび)することによって、つくったものが多くの人に役立つたり、劇中の効果をあげたりすることを知らせる。
- つくることを主体としたグループ活動の楽しさを味わわせる。

2. 指導にあたって

このクラスは1年ないし2年間幼稚園生活をj験している子どもたちで、個人的につくったり、それを持ちよって合作にしたり、先生の手を借りながら共同製作をして、部屋を飾ったり、劇あそびの時のお面をつくるなどして、自分たちがつくったものを使ってあそぶ喜びを少し知っている子どもたちである。

今年に入ってから、かいたり、つくったりそれが個人の作品だったり、グループでつくったりしてきたが、そのまゝとして、一つの劇あそびを取り上げ、全ての面で表現することの楽しさを味わわせたいと思う。

4. 本日の指導

段、階	指導の流れ	教師の助言と留意点	準備するもの
導入	○魚のいる海中について話合う ○劇をしていく上でどんな小道具が必要かを話合い、つくるものとその方法を考える	○水族館にいた魚を中心に、絵本の中に出てくる場面に応じてはまるかを具体的に質問形式で聞き、子どもから意見がたくさん出るようにする	製作した作品 紙 段ボール 構造紙 面洋紙 折紙 水彩絵の具 クレヨン
展開	○グループごとにつくるものを決める ○つくるものによって材料を選択する ○役割を分担しながらつくる ○使った用具、道具を所定の場所に片づける	○6-8名のグループを作っておき、何ををつくるのか話合うが、仲間からはずされることのないよう注意する ○グループをまわりながら、計画を聞きさらにヒントになるような助言、助力をあてる	のり ガムテープ セロテープ ホチキス
まとめ	○つくったものを使い、劇あそびをする ○交代であそび、見た感想、つくったものの効果などを話合う ○また自分たちであそびをつくりあげたいという期待を持たせる	○できあがったグループから片づけて、きれいな場所であそび、次のことができるよう心がける ○役割を決め劇あそびをし、自分たちがつくったものを使用する楽しさを知らせる ○こわれたときは修理しながらあそぶ	

3. 指導計画

- ① 絵本を見る。
“スイミ” レオニレオニ
訳 谷川 俊太郎
ストーリーを把握できるように、ページの順を追って話合う。
- ② 絵本に出てくる魚になって身体表現あそびをする。
- ③ ストーリーを追いながら劇あそびをする。
- ④ 出てくる魚のことを話合い、つくる時の材料大きさ、形、色を決定する。
- ⑤ 魚をグループでつくる。
- ⑥ つくった魚をつかって劇あそびをする。
- ⑦ 劇あそびをする上で効果をあげる小道具について話合う。
- ⑧ 小道具づくり(本時)

この指導の中で子ども達を水族館に連れて行って、生きて動いている魚を見せ、その感動が形に表われていくようにと考えている。

回転して動く

札幌市立元町北小学校 5年37名
指導者 山本 金次郎

1. めあて

- 回転する形から、おもしろい動きをするものをくふうさせる。
- 針金の曲げ、接合の技法や材料経験を通して、クランク機構づくりさせる。
- 回転体の動きをクランクのしくみによって伝動して、2つ以上の動きをくふうさせ、身近にある材料を利用して楽しいものを作らせる。

2. 指導にあたって

- 回転から生じる錯視現象を利用するもので「どうして、ふしぎだなあ」と子どもたちに強い興味や好奇心をいだかせ、とりわけ「ゆれる、回る、くりかえす」動きの追求は、この時期の子どもにとって最適である。
- クランク機構の工作は、しくみを作る段階で失敗が多く、アイデア通りの仕事が困難であるが、条件を明示し、材料機能、技術抵抗を取り

5. 指導のながれ

過程	時間	学習活動	教師の指示助言	備考
導入	20分	◎回転するものを作った経験を話し合う。 ・風車・ブンブンゴマ ◎回転すると渦巻き模様、混色する ◎参考作品例から回転の動き、見え方考える。回転軸の中心のズレと動きの速さに関係。	◎各種の動力で回転させて遊ぶものを見せて美しく楽しかった思い出を想起させる。 ◎回転すると模様の形や色はどうなるか。 ◎回転体を提示して動かして見せ、動きをとなえさせる。なぜかのように見えるのか。 ◎大小2つの円盤の組み合わせ。回転軸の中心のズレによる不等速回転に気づかせる。	◎コンパスの使い方（コンパスでえがける円のかけ方） ◎針金の曲げ方ベンチでしっかりと親指で強く曲げる。
発想製作	150分	◎大小2つの円をコンパスでかき切り取り、試動しながら動きの確かめ。 ◎基本形に見合う2つ以上の動き。 ◎クランクのしくみがわかり、その応用をアイデアスケッチする。	◎大小2つの円盤の組み合わせ。回転軸の中心のズレによる不等速回転に気づかせる。 ◎クランク機構のしくみと動き方の関係を模型図示で明らかにする。2つ以上の動き。 ◎運動する部分の上下の落差、凹凸の深さに関係することに着目させる。 ◎左右上下に動くものをスケッチさせる。	◎回転でアームの軌跡が2倍以上になる。 ◎技術抵抗のチェック ◎ロッドのとりつけとスベリ止めに留意
製	150分	◎必要な材料を整えて、計画にしたがって製作に入る。	◎材料を考えて効果的に使用させる。 ◎各部分の長さを正しく計らせ、針金の曲げ方連接棒のすべり止めを入念に作らせる。 ◎試行活動をすすめて、作りながら考えさせる。	
作	50分	◎動きぐあいを実験して確かめ手直しをして仕上げる。		
伝	100分	◎外品の外観を美しく飾って仕上げる。	◎心象的イメージと動きがよく表現されているか。個別に賞揚する。	
法	30分	◎友だちの作品のよさに気付く。	◎友だちのアイデアのよさを認め合わせる。	

除きつつ、これをのりこえる技法をひきだし、発想を定着化させ完成の満足感にひたらせたい。

3. 指導計画

- 第1次・予告と準備、教室にクランク機構の模型を公開し、自由に試行させる。
- 第2次・回転する基本形を作らせる。
- 第3次・クランク機構の動きをわからせ、回転、ゆれを利用してさらに二つ以上の動きを構想させる。
- 第4次・アイデアスケッチをさせ、材料を整えさせる。
- ◎第5次・計画にしたがって、製作に入る。(本時)
- 第6次・動かしながら悪いところを改善させる。

4. 準備

用具・はさみ、カッター、ペンチ、コンパス
材料・ボール紙、色画用紙、色紙、ストローパーリー、ゴム系接着剤、その他の雑材料（自由素材）

かえるのうた 詩「春の歌」を鑑賞して

しらかば台小学校 4年37名
指導者 日高 晴美

1. 教材観

ながい辛い冬の間、地中にひそんで来た「かえる」が初めて地上に顔を出した喜びの「春の歌」(草野心平)をテーマにして、その時のかえる、その後のかえるの主人公に自分を置きかえることによって、かえるの目や心をとおして見た自然の世界を表現しようとするものである。かえるに感情を移入しての表現であるだけにとかく硬直し、概念化の傾向にある子どもたちにとっては、好転させるテーマと思われる。

2. 指導目標

主 題 地中の暗い世界から地上の明るい世界へ飛び出した「かえる」の目をとおしてふれる自然の事物、経験する事柄を豊かに空想させる。
構 成 大人の国に行ったと感ぜられる子ども、「かえる」が見た世界のようにすう

5. 指導過程

過程	時間	学習活動	学習の流れ	指導の指示・助言	備考
導	10分	◎「春の歌」について理解のたしかめをする。 ◎自分が「かえる」になって見た物、出会った事について、想像する。	春の歌の理解	◎「春の歌」は発見や体賦の喜び、驚きを歌っていることを確認させる。 ◎自分は小さな「かえる」に変身しているのだから、この現実の世界が全く別世界に見えるであろうことを知らせ、各自の想を広げさせる。 ◎かえるの目から見上げたり、のぞき込んだりした場合を想像して、どんなふうに見えるだろうかを考えながら、作業を進めていく。	
人	15分	◎自分の想をどのように画面にかくか構想を練る。 ◎構想しながら、にじみ・ぼかしによる背景わりをする。	かえるの目 で見たこの 世界の驚き	◎下絵を見ながら、かえるの目から見た大きさや形の驚きの感じがでているか。 ◎自分のかきたい中心のものから彩色させる。まわりのものは線描だけで背景のにじみ・ぼかしを生かすこともある。 ◎楽しい雰囲気ができるように彩色する。 ◎かいた絵を展示して、くふうした点や自由な感想のやりとりをさせる。	
構	25分	◎構想に従って下絵をかく	画面構成の 決定		
下	80分	◎下絵に従って彩色する。	下絵をかく	彩色して往 上げる	
絵	20分	◎おたがいの作品を鑑賞する。	彩色を鑑賞 する		
彩					
色					
ま					
と					
め					
評		◎かえるになって見た、この自然界の事物・事象に、思わぬ発見がなされているか。 ◎見上げてみたり、中に入り込んでみた自然のようすをうまく画面構成したか。 ◎背景のにじみ、ぼかしと合わせて、彩色された楽しい絵にまとめたか。			

多く画面に構成する。
彩色 「かえる」になった「自分」ということから、幻想的な雰囲気が表現できるように、くふうさせる。

3. 指導計画

- 第1次 「春の歌」の「かえる」の喜びについて、理解を深める。→ 国語の時間
- 第2次 「かえる」の見た物や、これから出会うであろう事らについても空想する。→ 課外時間
- 第3次 構想によって、画用紙全体（あるいは部分的に）に、にじみ・ぼかしによる背景わりをする。
- 第4次 構想によって、絵を描く。
- 第5次 おたがいの作品を鑑賞する。

4. 準備

水彩絵具 画用紙。

第30回全国大会・第27回札幌大会（昭和52年）

領域	彫 塑	学年	2年	教室	107	題 材	石 の 中 に 顔 を 彫 る
5. 授 業 案							
過程	指 導 事 項	高 め た い 力	教 師 の 働 き か け				
題材 提示	・前時の学習と本時のねらいの確認	① 主題をとらえる力 ・意欲的にとりくもうとする態度	<p>前時までの学習についてたしかめる。 (今までの学習及び作業手順について) 本時の学習について説明する。</p> <p>顔のイメージづくりをすることを理解する</p>				
5分							
発想	・立体として顔を考える	③ 対象を量としてとらえる力 ・形の基本的なしくみを見出す	<p>石こうデッサンや、友人のスケッチの学習をあげ、その中で顔をどのようにとらえたかを発表させる。さらにその中のいくつかを基本的なものとして確認させる</p> <p>感情が顔の中にどのようにあらわれるかを例示によって考えさせる。</p>				
15分							
構想	・素材からのイメージづくり	④ 材料の特質を理解する力 ・材料の形や特性を生かそうとする	<p>白彫石を出させ、その形を観察させる</p> <p>素材の形からどのような感じを受けるかを考えさせ、発表させる。</p> <p>素材を通して出てきたイメージをクロッキーブックにスケッチをしながら制作の見通しをたてていく。</p> <p>白彫石の表面にスケッチさせる</p>				
20分							
制作	・スケッチが終了した者から彫り始める ・本時のまとめ ・次時予告	⑥ 計画的に制作する力 ・イメージを大切に表現する	<p>制作の見通しをたてさせ、だまかに彫り進めさせる。</p> <p>次時は全員が彫りはじめることを確認し、用具等の連絡をする。</p>				
10分							

		授業者	香取正人(啓明中学校)	
と生徒の活動	学習形態	用具、資料設備	学習の評価	
	個 全			
<ul style="list-style-type: none"> 顔の表現に関する今までの学習及び前時の説明をふり返ってみる。 本時の学習内容を理解する。 これからの手順を自分なりに考えてみる。 	○		<ul style="list-style-type: none"> 本時の内容を理解することができる。 	
<ul style="list-style-type: none"> だまかな顔のとらえ方や、立体としての特徴を考える。 目、鼻、口など部分の位置や形などを考え、その基本的なものを理解する。 感情によって、どのように顔が変化するかを観察する。 表情の変化が少なくても、いろいろな感情があらわれることについて考えてみる。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 参考作品 資料 OHP 参考例 スライド 	<ul style="list-style-type: none"> 顔の立体把握ができる。 立体としての基本的なものが理解できる。 感情が表情の中にどのようにあらわれるかを考えることができる。 	
<ul style="list-style-type: none"> 白彫石を観察し、その中から自分のイメージをつくり出そうとする。 ① 素材の中から自己のイメージを発見し、さらに制作手順も考えることができる。 ② 素材形とはうまくかみ合わないが、自分のイメージははっきりしてきている。 ③ 素材の形がうまくとらえられず、イメージもはっきりしていない。 素材の表面にだまかなスケッチをしてみる。 スケッチが思わしくなければ何度も消してかきなおす 	○ △	<ul style="list-style-type: none"> 白彫石 参考作品 スライド クロッキーブック クレヨン 色エンピツなど 	<ul style="list-style-type: none"> ④ 立体としての基本的なものをおさえながら自分のイメージを明確にできる。 ⑤ 自分のイメージと素材の形との関係を理解できる。 ⑥ 基本的な顔の立体把握ができる。 素材へのスケッチによって制作の見通しが明確になる 	
<ul style="list-style-type: none"> どこから彫りはじめるかを考える。 制作の見通しをはっきりさせ、彫りはじめる。 準備する用具や制作日程を理解する。 	○	<ul style="list-style-type: none"> のみ、たがね 木づち、布 新聞紙 	<ul style="list-style-type: none"> 制作の手順がたてられる。 	

第30回全国大会・第27回札幌大会

領域	デザイン(使用)	学年	2年	教室	102	題材	土笛をつくる
----	----------	----	----	----	-----	----	--------

授業案

過程	指導事項	高めたい力	教師の働きかけ	
題材提示 5分	① 題材のねらいの提示	① 主題をとらえる力	粘土で笛をつくることを知らせる。 身近な笛を例に題材を理解する。	
発想	② 機能と構造の理解	② はたらしに適合する色や形を想像する力 ・題材に即した形をいく通りも想像させる。 ⑫ 用と美の調和をはかりあわす力 ・良いデザインがそなえている条件をさぐらせる。	笛の構造について考えさせる。 音の出し方や音の変化を出す仕組みを見つける。 笛の仕組みを吹口や空洞の構造から分類し、音質との関係を理解させる。 用と美とのかかわりを考えさせる。 笛の機能と形の美しさとのかかわりを考える。	
構想	③ 形の構想をたてさせる	⑧ 条件をふまえて構成する力 ④ アイディアを生み出す力	笛の形や構造を決めていく手がかりや条件について考えさせる。 求める形を考えさせる。	
鑑賞評価 3分	④ 本時のまとめと次時の予告	⑬ ねらいに即して比較判断する力 ・ねらいが表現や構成にあらわれているか。	学習内容を振り返らせ、次時の学習への見通しをもたせる。	

授業者	多田 誠一(西陵中学校)
-----	--------------

と生徒の活動	学習形態		
	個	全	
<ul style="list-style-type: none"> 経験をもとに題材が理解できる。 さまざまな種類の笛を思い浮かべながら、笛への興味を深めていく。材料から竹、木、金属、プラスチック製のものや粘土で作った鳩笛やオカリナなど。 土笛制作とデザインのかかわりを知る。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 笛の見本 	<ul style="list-style-type: none"> 学習への興味をもつことができる。
<ul style="list-style-type: none"> 吹口の構造による音を出す仕組みの違いを見つける。(尺八型、リコーダー型、リード型、ラッパ型) 空洞の形や容積による音の大小、高低の関係を知る。 音域や音階と指穴の数や大きさとの関係を見つける。 <p>吹口 息を吹き込む 空洞 音をびひかせる } 笛の役割-構造条件 指穴 音域や音程をつくる!</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> 笛の見本 笛の構造図解 OHP 	<ul style="list-style-type: none"> 構造の特徴や違いがわかる。
<ul style="list-style-type: none"> ⑮ 用と美のかかわりを十分理解して発展的に笛の形を考えていく。 ⑭ 笛の構造を理解し、作品例を参考に自分独自の作品を考えていく。 ⑬ 参考作品などから笛に対する興味を持ち、制作への意欲をもつ。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 参考作品 	<ul style="list-style-type: none"> ⑮ 発展的に考えられる。 ⑭ 違いや良さがわかる。 ⑬ 制作意欲がもてる。
<ul style="list-style-type: none"> 求める音を出すための笛の機能的な形の他、粘土であらわすことのできる形の美しさや楽しさを、手に持った場合や置いて眺めた場合などを想定して考えられる。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 参考作品 	<ul style="list-style-type: none"> 機能と形の美しさとのかかわりがわかる。
<ul style="list-style-type: none"> デザインする上での用の画、音色、音の高低音域などからの条件と、形の美しさや楽しさの面からの条件づけについて理解する。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 粘土 スケッチブック 参考作品 	<ul style="list-style-type: none"> 用と美のかかわりを理解して形を考えていける。
<ul style="list-style-type: none"> 条件をふまえながら形を追求していく。 	○		
<ul style="list-style-type: none"> 漸新で独創的な形を追求していく。 アイデアを生む手がかりとして、自然物や人工物、抽象形などから発展させていく。 	○		
<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習を振り返り、次時へのめあてをみつけ出す。 	△	<ul style="list-style-type: none"> 制作工程表 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の見通しがつき、意欲を持つことができる。
<ul style="list-style-type: none"> 制作工程をおおまかに知る。 	△		

第28回函館大会（昭和53年）

函館市立湯川小学校

小3・絵画 物語の絵

指導者 石垣 由美子

I 題材 「りゅうの話」をかこう

II 題材について

「りゅうのお話」は、中国民話の一つである。その民話の中で登場する「りゅう」に、自分を託すことによって、子どもたちの創造的な表現力を刺激し、豊かな想像をふくらませてやりたい。

子どもたちは、まだ概念的な色のとらえ方もしているので、今回は特に色の指導をとおして表わしたい感じを色で表現することや変化のある色をくふうすることによって子どもの色感を高めさせてやりたい。

お話のイメージを効果的に表わすためにスタンピングの技法を取り入れ、子どもたちの造形的体験をさらに深めさせてやりたい。

III 目標

1. お話から情感や印象を適確につかみ、自分なりの考えをもって表現させる。
2. 周囲の情景と関連づけながら、場面の中心となるものをはっきりかかせる。
3. お話の感じをだすように色で明暗や濃淡やかき方（技法）をくふうさせる。

IV 指導計画（8時間扱い）

発想	1. お話を聞いて受けた感じや気持ちをもとにかきたい場面について話し合わせる。… 1
構想	2. 表わしたい感じをしっかりとつかませ、下絵をかかせる。…………… 2
表現	3. 場面の感じができるように色をくふうしてかかせる。…………… (本時 $\frac{2}{3}$)
	4. さらに強める色やつけたす色を考えさせて仕上げさせる。…………… 1.5
鑑賞	5. できた作品について話し合わせる。…………… 0.5

V 本時案

1. 題材 強いりゅうをかこう。

2. 目標 ●力強いりゅうをスタンピングの技法をいかしながら色で表現させる。

3. 本時の指導にあたって

3年生としては、このスタンピングの技法は主にデザインの中で経験しているが物語の絵の中で使うのははじめてである。

またこの技法を学習に取り入れることは、筆では得られない強い効果がでるので子どもひとりひとりのイメージを広げさせて生き生きとした表現につながると思われる。

第30回全国大会・第27回全道大会（昭和52年）

ロボットを作ろう

札幌市立東光小学校2年37名

指導者 芝木 秀昭

1. めあて

(1) 紙類や身近にある材料を使って、簡単な動きをするロボットを作る。

(2) 集めた材料の特質を生かし、それを効果的に表すことができるようにくふうする。

2. 指導にあたって

○学級の子もまたは虫や動物やロボットなどが好きであり、中でも動くロボットやロケットなどには特に興味や関心をもっている。

身近にある材料を使って簡単な動きをするロボットをくふうして作ることは、子どもの生活感情と結びついたものであり、又集めた材料の特質を生かし自分たちの作ったもので遊ぶことは、子どもたちの創像意欲を高めることができると考える。

5. 指導過程

学習活動	指導内容	留意点
1. 作例をもとにひもを引くと動くしくみを考える。	○作例を見せ、作るもの、条件について指示する。	○発想を幅を広げるため動かすしかけだけを見せる。 ○おもしろい、作りたいという意欲をもち上げる。
2. 作りたいロボットを絵にかきどこを動かすか考える。	○条件をもとに楽しい発想をいろいろラフスケッチさせ、構想をまとめさせる。	○自由なアイデアスケッチをさせ、その中からどんなものを作るかを決めさせる。
3. 計画をたて材料を集める。	○どんな形、色、材料で作るか、又、どんな順序で製作するか計画をたてさせる。	○個別指導をし、しくみや作り方などの不明確な点を指摘し、ヒントを与える。
4. 材料をくみあわせ、順序を考えて作る。	○製作上の留意点について注意し、製作させる。	○用具、材料、作品など製作しやすいように机にきちんとおかせる。 ○接着や補強のくふう、ひものつけ方など、適宜、指導する。 ○動かす部分の取り付けを正確にさせる。
5. 動きぐあいを確かめて手直しをする。	○動きぐあいや丈夫さなどについて不じゅうぶんな点を指摘し、アドバイスを与える。	○実際に手で動かして動きぐあいや丈夫さ、外観などを確かめさせ、不じゅうぶんな点を見つけて手直しさせる。
6. できあがった作品を動かして遊ぶ。	○できた作品を動かして友だちと楽しく遊ばせる。	○自他の作品を動かして、良いところを見つけさせる。

○しかし、子どもたちの表現能力から、高度な機構を使った動きをする作品を作ることは無理なので「ひもを引くと動く」ことを条件にして、目や口などが単純に動き、楽しく遊べるものを作らせたい。又、できあがった作品よりも喜々としてとりくむ姿の中でなされた努力やくふうも大切にしたい。

3. 指導計画 ——5時間扱い——

- 第1次 構想を練に材料を集める… 1時間
- 第2次 製作 …… 3.5時間
- 第3次 作品を使って遊ぶ …… 0.5時間

4. 準備

- 用具…カッターナイフ、はさみ、ものさし
- 材料…接着剤、身近材料、空箱、色画用紙

物語の絵

I 題材 物語の絵「つる」

II 題材について

この題材は国語の教科として学習したものであり、感動性の深い物語であるから、子どもたちは、それなりに主題をとらえている。しかし、文やことばからくるイメージだけでは、想像豊かな形や色彩にならず単調(概念的)な絵になってしまうと思われるので、ここでは、内面からくる子どもの感情をいかに自分の色として変化のある表現をさせるかということをおねらいとする。

子どもたちは、今まで色数の少ない概念的な色で簡単にまとめてしまうことが多く、自分の色を作る喜びや自信を持っていなかったため、混色することによって、自分の感じたことを自分の色にしていくという自信を持たせ、制作させたい。そして、絵を構成していくための技法によってもいろいろな表現ができることを知り、表現効果を高め、子どもたちに成功感を持たせてやりたい。

III 目標

1. 物語から感じたことをはっきりさせ、それを手がかりとして豊かな発想をさせる。
2. 主題に即して部分と全体の関係をとらえ広がりのある画面構成をくふうさせる。
3. 自分の表現したい気持ちを色や色彩の方法をくふうして造形表現できるようにさせる。

IV 指導計画

発想	1. お話を読み絵にしてみようという感欲を持たせる。.....	0.5
構想	2. 描きたい場面について話し合わせ、決定させる。.....	0.5
	3. 一羽のつるの視点からあたりのようすを構成させる。	
	4. つるやたかの戦っている場面をラフスケッチさせる。(一般的形態の観察)	2
	5. つるの動きや群がり方で広がりのある構図をくふうさせ、下絵をかかせる。	
	6. 自分の感じたことをもとに色の変化を考えて彩色させる。.....	4
表現	7. できた作品を見て感じの出ている所、くふうされている所など、話し合わせる。.....	1

V 本時案

1. 題材 はげしく戦っている場面の空
2. ●自分の色や彩色方法をくふうして変化のある空を表現させる。
3. 本時の指導にあたって
つるとたかがはげしく戦っている空を混色や重色によって自分なりの色を作り、単に筆でぬんというだけでなく、色で描くという意識を持たせ、紙質の効果も考えて、変化のある表現をさせ、次時には筆をふったり、タンポンでちらしたり、等の技法も用いさらにはげしさを出させ効果をねらい、感情を色で表現させる目標に迫らせたい。

4. 学習・指導過程

学習内容	学習の流れ	留意事項
発想	はじめ 本時のねらいの課題 ・自分のめあてをとらえる力	・下絵をもとにおそろしい感じや不気味な感じを話し合わせる。 ・ひとりひとりが自分のりゅうをどんな色でかくのか考えさせる。
構想	強いりゅうをかく手だて ・強い感じのだし方がわかる力	・まわりの色を考えながら、りゅうの強さをどのように表わすか話し合わせる。 ・色の感じや表現の違う二つの作品を提示して比較思考させる。 (資料1.2.3. スタンピング)
	スタンピングによる製作 ・スタンピングの技法を生かす力	・スタンピングの技法でうろこの力強い感じをだすくふうをさせる。
表現	強さがあらわれているか【机間巡視】	・話し合いが生かされているかどうか。 ・お話から受けた感じはでただろうか、確かめさせる。 ・スタンピングの技法をうまく生かしているか。
	表現意図のたしかめ ・他の子どももっている良さに気づき自分の中に取り入れる力	・机間巡視をしながらくふうしているものは取りあげて広めてやる。 ・他の子どもの作品の中から自分にない良さをみつけさせたい。
鑑賞	それぞれくふうされているか【机間巡視】	・りゅうの力強い感じがさらにできるようにくふうさせる。 ・画面から目を離れて細めてみさせ、色の調子をとらえていかせる。
	次時予告とあとしまつ ・あとしまつの仕方	・次時予告 ・あとしまつをきちんとさせる。

米づくりの道具

（愛宕をひらいた人々）小6・鑑

指導 原 良 三

児童 愛宕小学校 41名

1. 題材について

表現と鑑賞は、表裏一体のものであるといわれるが、現実には描き、つくり、飾るといった表現活動に比べ、“みつめ”“みきわめ”といった具体的な手だてを持つ鑑賞活動の実践例は少ない。

かつて5年生の子どもたちに、うわぐつを描かせた実践で、ある子が“きれいではないが美しい”という感想を詩に書き綴ったのを思い出す。うわぐつの持つふくらみやよごれ、質感といった造形的なものの表現を通しつかみとりながら、同時に対象の持つすばらしさや価値に気づいたわけで、この心情的な対象とのかかわりの部分はすでに鑑賞の眼であったと今思うのである。

“みつめ”“みきわめ”“みとった”ものを造形的に表現する——つまり表現。“みつめ”“みきわめ”“感じとった”対象を、内面的な高まりとして価値づけていく——つまり鑑賞。

こうした身のまわりにある対象と、かかわりながら、それらの持つすばらしさや価値に気づき、言えること、それらが確実に“ゴッホの絵はすばらしい”“ロダンの彫刻が美しい”と言える鑑賞の素地となり、それらを鋭く見ぬく眼をきたえることを考える。

もともと屯田兵によって切り拓かれた美田が広がっていた愛宕は今、新興住宅街である。昨年度まで水田だった土地が次々と宅地となり、きらびやかな家が新築されていく。こうした中で離農していく農家から持ちこまれた農具類が教材室に数多く収納されている。

昨年子どもたちは、愛宕活動で米づくりに取組み、一粒のみみから稲刈り、もちつきによる収穫祭まで、ひとりの苦労に汗を流している。

こうした彼等に、農具の中から米づくりにかかわる道具をみせ“みつめ”“みきわめ”“みとって”描くことを通し、これらの道具を使って生産に励んだ人々の知恵やエネルギーを感得させるのは、ともすれば、道具に使われている人（自分も含めて）や、人と道具とのかかわりを考えさせ、自分のくらしを見つめ直すきっかけにもなるのではないかと考えた。

更に、こうした、米づくりの道具を見とらせ、感得させる発展として、愛宕をひらいた人々の姿を構想によって描く、あるいは版によって表すことも考えている。

2. 目 標

- (1) 米づくりの道具を見させ“見とって描く”活動とかかわらせながら、道具の持つよさを“感じとらせ”る。
- (2) これらの道具を使って生産に励んだ人たちの知恵やエネルギーをイメージし心情を深めさせる。
- (3) 人と道具のかかわりを考えさせ、自分のくらしを見つめ直すきっかけにさせる。

3. 指導計画

- | | |
|--|---------|
| 1. 米づくりの道具を見せ、見とったもの感じとったことを制作カードに書かせ話し合う | 5時間 |
| 2. 米づくり道具をくわしく見とって表現させ、描き感じとったものを制作カードに書かせる | 1時間 |
| 3. それぞれに見とったもの、感じとったことを、絵・制作カードを手がかりに、必要に応じては実物も見せ話し合う | 3時間 |
| | 1時間（本時） |

学習内容	学習の流れ	留意事項
発想	はじめ	
場面	本時の学習について話しあう	・図工ノート、下絵をもとに場面のようなを想起させ、テープを聞くことによってさらにはつきりさせる。
構想	本時のねらいの確認 ・自分の気持ちを変化のある空に表現していくことがわかる。	・自分が一羽のつるとしてどんな気持ちか話し合わせる。 ・自分の表現したい気持ちをはっきりさせる。
製作	変化のある空への手だて ・どんな色をもとにして変化をつけていくか考える	・色カード（50色）を見ながら出したい色を考えさせる。
表現	・資料を見て変化のつけ方や表現方法がわかる。	・つるやかさをとりまく空 山の陰になる遠くの空 手前に広がる空 左右に広がる空
鑑賞	色をつける。	・色と水の量（色の濃薄、にじみ）混色重色、筆致等の表現技法に気づかせる。 ・自分の使いたい色や方法を紙に試しながら描き進めさせる。 ・自分の色に自信を持って着色させる。
	NO 広がりや変化が出たか 机間巡視 YES	・考える手がかりを理解しているか。 ・表現方法につまづきはないか。
	個別指導	
表現意図の確かめ	友だちの作品を見て話し合う。	・感じが出ているか ・よい色が出たか。 ・表現方法のよかったところはどこか。
次時予告・あとしまつ		
	おわり	

中原悌二郎の作品にふれる

生徒 明星中学校 43名
指導者 鳥本 捷夫

1. 題材について

中学生になると、自己中心的な小学校時代から脱皮し、自分を他とのかかわりの中でとらえようとする社会的な目が育つ段階であり、それだけ知的、論理的な考え方を大切にする時期でもある。

現在の社会の中では、テレビ、映画、雑誌など、他から送りこまれてくる種々の情報を深く見つめることなくしに表面的にとらえ、美術作品などについても「誰々の作品である」というような知識だけをつめこむ生徒に終わってしまいがちである。

幸いにして旭川は、中原悌二郎ゆかりの地であることから、彼の生涯作品11点のうち10点を有しており、市民の大きな財産となっている。又、過去10年来中原悌二郎賞を設定し、全国より著名な作品を集収しており、日頃市民の目にふれる機会も多い。

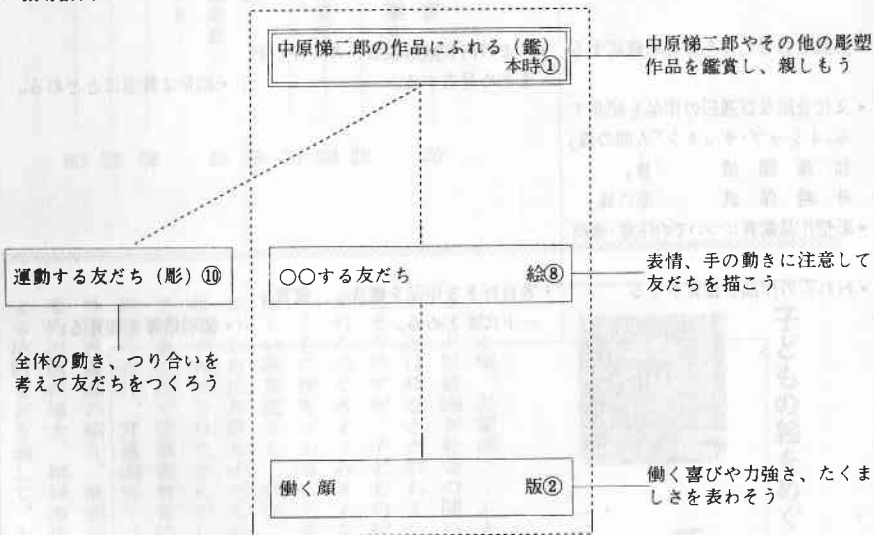
しかし、生徒達は、それらの作品に思いをはせ、自分とのかかわりで深く見つめるといった意識に欠けるのが現状である。

そこで、こうした機会を通して、中原悌二郎をはじめ市内にあるこれら彫塑作品にじかにふれ、その美しさ、良さを味わせ彫塑に親しませたい。こうした学習を重ねることによって育てられた、見方、考え方があらゆる表現活動の基になるであろう。

2. 目標

中原悌二郎や他の彫塑作品の鑑賞を通して、彫塑の美しさを味わい、楽しむ態度を育てるとともに、次の制作に対する意欲を高める。

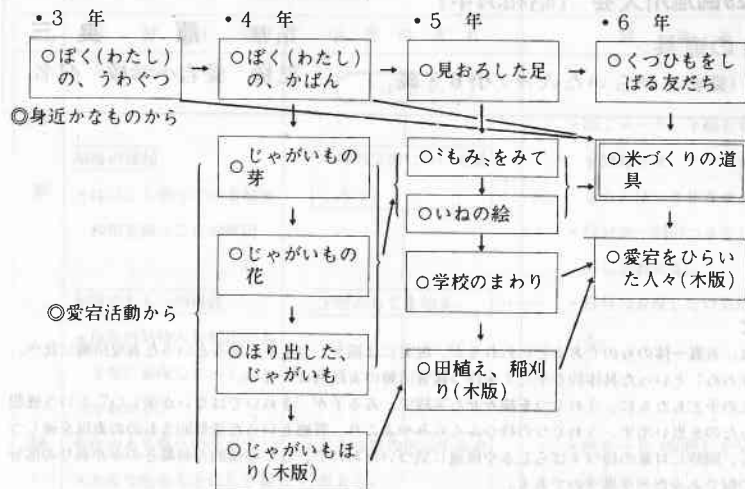
3. 指導計画



4. 準備

- 中原悌二郎彫塑作品、その他彫塑作品
- VTR (NHK教育テレビ 録音テープ)
- 鑑賞カード

※この子どもたちがたどった題材系統関連



4. 本時の学習

(1) 目標

- ① それぞれが描いた作品、表現の過程で利用した制作カードを手がかりにしながら、米づくりの道具が持つ特質や、そのはたらきをよみとり、人々の知恵のすばらしさを感じとらせる。
- ② 自分の暮らしの中にある、さまざまな道具とのかかわり方についての考えを持たせる。

(2) 準備

- ① 教師——〇米づくりの道具類
- ② 児童——〇作品、制作カード

(3) 流れ

教師の働きかけ	児童の活動	留意点
○本時の学習の進め方について話す。 ・なかま相互の作品と詩を手がかりに、視点をきめて。 ①描きとったもの、感じとったものを、まずグループで話し合い。 ②グループ全体の意見として描きとったもの、感じとったものを全体で話し合うこと。	○自分の作品、詩から、描きとったものを感じとったものをはっきりさせ、グループのなかまに提起し、意見交換する。 ○グループごとに描きとったもの、感じとったことを発表し、意見交換する。 ○制作カードにまとめる。	○必要に応じて米づくりの道具を見させる。
○描きとったもの、感じとったものをまとめる。	○まとめと、米づくりの体験などから道具を創り出した人々の気持ちや知恵や工夫などを考える。	○制作カードを利用させる。
○こうした米づくりの道具を創り出し、使うことで生産に取組んだ人々の知恵やエネルギーについてイメージを浮ばせ話し合わせる。	○これらの道具を使って生産に取組んだ人たちの気持ちやエネルギーを考える。	○道具への価値づけ
○暮らしの中での自分と道具とのかかわりについて考えさせる。	○日頃の自分たちと道具のかかわりについて考える。	○制作カードにまとめてさせる。

創造の泉

その2 論文ダイジェスト



- 子どもの絵をめぐって／新妻 清……………227
- 画用紙による立体設計を提案する／伊藤 恵……………231
- 新しい空想画の指導／荒木愛子……………233
- 私のアイデア／高橋良助……………235
- 描画指導に想う／和田芳郎……………236
- 教師の豊かな発想から／池本良三……………237
- 高学年の描画指導のポイント／佐藤吉五郎……………238
- 授業のくふう／早弓弘行……………239
- 色と形の認識と創造……………242

子どもの絵をめぐって



新妻 清
(二代委員長)
一九六三年五月六日
五、〇〇〇字

ひと頃、児童画ブームという言葉が使われるほど児童画が社会の関心を集めました。ブームとは蜂などが群れている羽音がその語源ですが、子どもの絵がなぜこんなに騒がれたのか考えてみますと、まず子どもには子どもの世界があることを前提とした戦後の新しい教育観から、戦前には見られなかったような自由奔放な子どもの絵が出現しそこに焦点が向けられたからでしょう。それに伴って児童心理や児童画教育の研究が盛んになり、画塾の流行、児童画展やコンクールの流行、外国児童画の紹介、映画やスライドの製作、美術出版の増大、精神衛生面からの児童画による診断などを通して、おとなが子どもの絵

5. 流れ

教師の活動	生徒の活動	留意点・その他
<ul style="list-style-type: none"> • 旭川にある彫塑作品について思い出させる • 本時の鑑賞学習について知らせる • 中原悌二郎のおいたちを知らせる • 中原悌二郎の作品をみせながら簡単な説明をする 	<ul style="list-style-type: none"> • 自分の知っている彫塑作品の作者、ある場所等について発表する。 • 中原悌二郎の作品をみる • 心うたれた作品、感じたこと等をメモする。 • 感想を発表する • VTRを見せる • 解説者の考え等をまとめ確認する • 文化会館及び週辺の作品を紹介する。オシップ・ザッキン「人間の森」 加藤 顕 清 「首」 舟越 保 武 「原の城」 • 彫塑作品鑑賞についての注意・連絡 • われらの作品を鑑賞させる 	<ul style="list-style-type: none"> • 鑑賞カードの配布 • 鑑賞カードの配布 • 略歴にとどめる • 話し合いのなかから素直な感動を出させたい。 • 紹介は数点にとどめる。 • 各自好きな作品を鑑賞し、鑑賞カードにまとめる。 • 個別指導を加える。
<ul style="list-style-type: none"> • 集合し注意・連絡をする。 	<ul style="list-style-type: none"> • 集合し、鑑賞カードの提出。 	<ul style="list-style-type: none"> • 交通に対する注意。

に関心や興味をもち、それが時代の波に乗ったということでしょう。(中略)

児童画展の功罪についてはいろいろ論議がありますが、応募数が多くなるほど落選する子どもが多くなってそれだけ子どもに劣感を持たせるからいけないとか、或は入選した絵特に入賞画だけをよい絵だと信じこんでそれを真似する危険があるという反対論もありますが、しかし、展覧会に出品することによって自信もつくし、さらに他人の絵を見て自身の見聞の幅を広げ、新しい発想や技術を発見する手がかりになり、社会性をも拡大することができるといふ賛成の意見もあり、とにかく、これら児童画展が開かれることで児童画が大きな進歩をしたことは事実だと思います。

子どもの絵が子どもの絵として扱われるようになったのは、大正時代に画家の山本鼎氏が自由画運動を提唱してからですが、それ以前の明治時代は図画手本を臨画して、描く技術を習得させることに主眼を置いていました。つまりこの時代の教育思潮の根底には、子どもはおとなになるための準備として教育を受けなければならぬという考え方があり、経済政策としても早く欧米諸国に追いつこうと

いう国情にも起因していたのでしよう。

山本鼎氏はこのような臨画教育に飽きたらず自然主義的な人道主義を立場から「子どもには子どもの世界がある。子どもを自然の野に放し、自然が持っている美の秩序を感じとらせることによって、やがて子どもは自我や個性を発揮することができるのだ」と信じて自由画の方向を打ち出したわけで当時の図画教育界に大きな影響を与えましたが、惜しいことには一般の教師が「自然を感じる教育」へ進むことがなされず、単に「自然を写しとる教育」つまり写生偏重に走ってしまったために、山本氏の精神が具現されず、図画手本を臨写することからただ自然を写すことに代わっただけであつたわけですから。しかし戦後の現在では児童心理の研究や児童画研究教師の努力によって、子どもが自分で感じたことと表現をした絵、創造性に富んだ子どもらしい純真な絵が随所に見られるようになりました。だが全部の児童画がこのように子ども本来の姿になったかというところでもなくまだおとなが考えている風景画、静物画、人物画というような形式的な枠に囚われ、ややもすると学級の子どもの全部に類型的な絵を描かせる指導が日本の教師の中に残存しておりますし

一般人の中にも写真で写したように形も大小も遠近、色彩など常識的に整っていないれば満足できないという考え方が残っているようです。

写真のように、きちんと説明的に整った絵を描くことも必要です、それが生活の実用に役立つ場合もあるわけですが、それが絵の総てであるとするならば、写真機で写した方がより優れていることになるでしょう。(中略) 子どもは、見える通りに描くのではなく、知っている通りに描くと言われていますが、知っているといつても、それは知識としてはなく、むしろ知識に禍いされない体験の内面で培われたもの、そういう意識が素直にひらめき、それが絵となって表現されて来ると思ふのです。つまり感性ということでは絵も詩も音楽も同じだと言われますが「ものを感じとる心」を私たちは養ってやらなければならぬと思います。感じとる心とか、何に感動するかは各人によって異なり、その人の知識や体験や感覚によって違うので、このことは絵を描くことより、むしろそれ以前の、その人の生き方、生活のみつめ方の問題で、ここに児童画指導の要点があると思ふのです。(中略) 絵を描くということは自己の内にあるもの

を表現することですから、当然自主的とか創造的ということが大切になって来るわけですが、しかし複雑な社会機構と科学が生んだ消費文化の洪水に私たちは押し流され、機械の便利さと非情に人間性を失い、いつのまにか

出来合いのもので間に合わせる受動的な生活に馴れっこになっていないでよいでしょうか。ですから空は青、木は緑、屋根は赤というように固定化した無性格な概念画に終つてしまひ(中略)単なる季節や社会的行事の説明画になってはいけないので、子どもが子どもの生活の中から「おどろき」とか「ひらめき」を発見できるようにしてやりたい。泥をこねて遊ぶ手、鉛筆を握って勉強する手、お手伝する手そのどれもが同一の子どもの手であり、その子どもの生活の体験の根につながっている手なので、朝に夕に生活している内におのずから積み重なって造形の芽が生まれて来るものでありましよう。(中略)

そんな心情を育てながら家中の者が子どもをの絵を見てはげまし話合つてやるところに、子ども自身が自分の生活を大切にしてい、人まねでなく自主的に、より美しいもの、より正しいもの、より消らかなものを求める心になるものではないでしょうか。これは生きる力

の根源となるものだと思うのです。

この素朴な子どもの感動、ひらめきは、矛盾をはらむ社会の圧迫などのために、ねじ曲げられたくないものだと思うのです。(後略)

画用紙による 立体設計を提案する

伊藤 恵

北海道学芸大学付属学校共同研究会編
「学習指導の実践的研究、小学校編」
一九六三・一〇・九、六〇〇字

I 新造語「立体設計」

子どもたちにとって、本来立体としてあるイメージを見取図や投影図になおすことは、かなりの難題である。そのイメージは図示上の問題のためにゆがめられて、実際の工作にうまくつながらない場合が多い。

紙による立体設計というのは、図にこだわらないで、最初から立体の形式によって設計するから、図がかけないためにおきる不都合は解明する。

立体設計は俗にいう模型ではない。実物大の立体を画用紙などでつくってみて、形がきまつたところで、型紙として利用する場合は多いから、むしろ「かた紙」に近いといえる。

II 気楽に立体をつくること。
子どもが絵をかく気安さで、立体をつくれたらと思う。

子どもは、ふだんの生活の中で、いやというほど立体とつき合っているが、表現の面になると、たとえば粘土でつくる場合でも、いつも平面化の傾向をもっている。

このような傾向にきからつて、自由な立体構成にまで導くには、材料の扱い方について「切る」「つける」を主な指導内容とする従来の方式では不完全であるつまり「切る」と「つける」とか「立体と、どう結びつくか」という点をあきらかにする必要がある。

I 切る、つける
ここで「切る」というのは、平面から形を切りとることである。形をきりとるだけで終わるときは、どんな切り方でもかまわないが切りとつたそのへりを他のへりにつけようとする場合は、接着面又は切着線ができるだけ大きくなるような切り方の工夫が必要になつて来る。

木工の相欠き、3枚組み、紙工、金工のりしろ等は、「接着力が接着面積に比例する」という法則をみたすための手段であったが、紙の場合、糊代なしで組み立てるときは、切り口のぎざぎざは著しく接着力を阻害する。なめらかな切り方は、接着と関係づけた切り方だといえる。

2 支える、固定する、安定する、補強する
一体平面が立つためには、互に支え合う2面と、その2面の支え合う関係を固定する働きをもつもう一つの面が必要である。

ある角度をもつ2面は、屏風のように立つこともできるし、屋根のように立つこともできるが、その目に見える2面の他に、机や、地面のような第3の面が、前の2面のある角度を一定に保つていたことを忘れてはならない。

固定された立体は、たおされても、お互いの関係を変えることはなくなるが、すこしばかりの力で倒れないために、台を広げたり、重心をさげたりして、安定をはかることも必要である。

更にまた、その弱々しい紙のへりを折りまげることによって、比較的つよいものに変える補強が必要な場合もある。

新しい空想画の指導

荒木愛子

(札幌・桑園小)
一九五六・一・五
「新しい児童画の指導」
国際学童美術研究会編
六、〇〇〇字

空想画を、どのように取扱つたらよいか、というあなたの質問に対し、かつて同じような疑問を持った一人として、最近の考えや実践の一部をほんの参考までに述べてみます。二つの人工衛星が地球をめぐり出してから多くの波紋が渦をまいて、世界を動揺させているのですが、その中の大きな問題の一つは教育でありましょう。

理工系教育の強化ということであり、その反面、芸術教育が、うしろにかくれてしまいうような、というあなたの危懼は、全く指摘される通りだと思います。

ほんのわれわれの身近かの、教師や父兄の間で、考えられ、語られていることだけでも、なかなか容易ならぬ問題のあることが窺われています。

「切る」「つける」ということを、仮に第一の技法と考えると「支える」「固定する」「安定する」「補強する」などは、第二の技法といえる。従来は、その第一の技法だけを基礎と考えて、あとは一足飛びに目的の作品にとり組んだから、知らず知らず、第二の技法を工夫した者以外は、すべて原因不明の失敗を余儀なくされたように思われる。

一定の「つくり方」に従い、形の模倣が横行したといっても、それは創造性の欠如というよりも、立体のみ方について、未分化であったことにほかならない。

このように考えてみて、気楽に立体をつくるためには、立体の表面から見える形の「きり方」「つけ方」のほかに、その形の負っている機能面として「支える」「固定する」「安定する」「補強する」などについて意識させていく必要がある。

3 ふくらみ・遠近・かげ・表面処理立体の形の上で考えられる面もある。ふくらみをつけ、遠近を考慮し、かげをつくり、単純な平面に変化をあたえるような表面処理の方法が工夫される。

立体設計は、氣がるに画用紙から求める形を切りとり、次にそれをどの空間に位置づけ

るかを決めることから始まる。

空間に位置づけるとき、「支える」「固定する」などの技法が当然つかわれるが、それをより立体的にするために「ふくらみ」があたえられることになる。

立体のふくらみを、平面材によってつけるためには、従来展開図を必要とし、その展開図の故に投影図を必要としたが、画用紙による立体設計では、メノコ算式につきはぎ覚悟の試行によって進められる。

4 立体設計が終わってから
立体設計が終わったあと、セメントの型などを除いては殆んどすべて、ていねいにはぎとって型紙として使う。

紙の工作は勿論板の工作、プラスチック、板金工作等を含めて、広く、平面材全体の立体計画に使えるのが長所である。

III 立体設計から投影図へ
立体設計と投影図法とは、同一の原理に立っている……(省略)

IV 平面材を紙にしぼること
立体設計との関係において、平面材のあつかいを紙にしぼることはかえって、他の広い範囲の材料の扱い方にまで発展させる上で効果的であると考えられる。(以下略)

現にあなたが、PTAの席上で「図工よりも理科を……」といわれたことから、全校生を宇宙画にとりくませ、絵もまた大いに科学的であり、理想や空想をかもし出す温床であることを誇示しようと試みたこと。私は、若いあなたの一図きを笑いながら聞いたのですが、その結果は全く同じような作品ばかりで、何が科学的であり、どこが空想的なのかわからなくなったというあなたの失望をきいて、これは笑いごとでないとは思ったのです。

あなたがそこで、失望し疑問を持ったことに私は敬意を表します。そのような試みだけで事足りりせず、理論の上では、創造性を培かうとか、空想をそだてるとかいいながら、実践の上では、それがどこでどう育っていくのかわからないという、大問題を、自分の悩みとして抽出された態度は、ほめられていいものです。私が笑いごとでないというのは、人工衛星時代ともいえるべき、この時期の現象として、非常に多くの試み組、事足りり組、そして悩み組が、われわれの仲間のあちらこちらに、現われていそうな気のすることなのでした。

いっただい、科学推進のために、理工系の時間を増やしたからといって、どれほどの効果

がのぞめるでしょうか。日本の科学が振わなかったとすれば、むつかしい公式や数字や実験などを、記憶したり、丸暗記したりする技術は巧みにさせ得ても、そこからほとぼしり出る強い感動を得させられたか、どうか。その感動から、飛躍展開する夢を生む素地、創造性を養い得ていなかったことに原因がある、という反省こそ、必要なのではないか。この素地をながしおろしては、いかに時間を増したり等々の、応急手当をしても、結局は丸暗記の繰返しがあるばかりではないか。創造性を養うための、芸術教育の重要性を、今こそ痛感すべきではないでしょうか。

私たちのしごとは、絵描きを作ることではないと同様、科学者だけを作るためでもない。人間を作る基礎教育であることはいうまでもないので、星がとんだからといってあわてて宇宙画を理科と結びつけようなどの、姑息な手段をとることなく、敢然とおちついて、本来の図工教育のあるべきすがたで、進むべきでありましょう。図工は不要のものという観念が、どこかにあるとすれば、それを作り上げた責任者であるわれわれ図工担当者は、現実の非を鳴らす前に、大いに反省して過去の指導のあやまりを補い、認識をあらた

めてもらえるだけの、実践への努力が必要で
す。

まず「空想画をかくてごらん」という指示で
今まで、子どもにどのような絵を予想したか
を考えてみますと、ある指導書では「未来の
国」「宇宙旅行」「虫の国」は「子どもの国」
を描かせるとして、あげています。「子どもが
子どもになったとて、なんでもうれしいことが
ある」と藤村は、おままたごの詩でいいまし
たが、子どもに向い、とりたてて子どもの国
を空想させるのは、ふしぎな考えです。よく
絵本にある、遊び場のようなことを想定した
ものかと思いますが、他の例題も同様な危険
—大人の擬似空想のおしつけになった場合が
多くはなかったでしょうか。このようなもの
は、空想力を育てないばかりか、むしろ、概
念画の練習にこそ役立つことでしょうか。

一斉に課題して空想画を描かせること、む
りに描かせようとするに、むりがあるとは、
思いませんか。

かつて、あまりにも現実の模写をさせすぎ
た児童画から、今日の児童画への転換期に、
概念くだきのショック療法として、役立てた
こともあったかも知れないが、すでにその時
は過ぎたように思います。

私のアイデア

高橋良助

造形教育三号

◎円周を二十四等分出来る三角定規
これは又十五度、三十度、四十五度、六十度、
七十五度、九十度の三角規定とも言えまし
う。

図のような形のもので、下の図はT定規
も使って、引くことの出来た線ですが、十五
度づつ円周を二十四等分しています。
普通ですと十五度や七十五度の角度を引こ
うとすればどうしても三十度と四十五度の三
角定規が二枚必要です。そして角度を合せて
七十五度に並べたとき、T定規の水平線に対
して十五度と七十五度の角度になっているで
しょう。

しかし、いまはこの定規一枚でことすみま
すから面白いのです。

私はある日見るともなしに重ねて壁面の釘
に掛けられていた二枚の三角定規を眺めてい

そうでなくてさえこの頃は、ロケット・宇
宙図・火星人など、絵本や冒険小説、テレビ
などからのうけりそのままを、画面にのせ
るだけの無味乾燥の絵が出てきて、がっかり
します。それは殆んどが、自分で興味ふかく
観察した素材を含まない、概念的な子ども
画です。

もつとも低学年や、知識・社会性のおさな
い子どもには、人工衛星だって、おとなほど
驚くはずはなく、はるかな連の空から、眼に
みえぬ高空を飛びだした星より、自分で捕え
た一匹のトン魚や、きりぎりすの方に興味の
あるのが自然でしょう。自然の状態から、自
然に子どもの血肉に通う教育がなされるのが
本当であるはずだ。

だいたい、子どもの生活の一部が、夢や空
想であるとすれば、子どもの絵の一部に、夢
や空想があることで、十分なではありません
か。子どもの空想性と生活は、きりはなせ
ないものでありましょう。生活が要因で、そ
こに空想がまつわっている、と考えていいと
思います。子どもは「生活を語るおはなしの
絵」を描くのですから、生活を語る素材が豊
かになれば、空想もまたふくらむでしょう。

「空想だけをとりあげて育てよう」とせず、

ました。

ハツと頭の中でひらめきを感じたのです。
それは四十五度と三十度の互の斜辺を重ねて
記し、定規に使えるような長い直線の穴を穿
って見たらと思つたからなのです。

思つたことが直ちに工作出来ることは私共
の第一に感謝すべき事ではないでしょうか。
これも一つの創作といつてよいことです。

材料はセルロイドでもタキロンでもよろしい
のですが、既に出てくる三角定規を買つて
来て加工してもよいでしょう。

それには長さ二十四厘位のものがよいと思
います。二十四厘と言えば四十五度の三角定
規では斜辺の長さのことですし、三十度の三
角定規では直角に隣る辺の長さのことです。
ここでは四十五度のものを一枚あればよいの
です。

厚さは二耗のものがよいでしょう。
そして図のように切り抜きますが、定規と
して使うところは正しく直線になるように磨
り均さなくてはなりません。

図工の先生ともなれば一枚はどうしても机
上に用意しておいてほしいもの一つです。

◎四段に使いわけ出来るハツチング
定規

生活を育てる」のが、根本だと考えるのです。
そのために絵を描かせるのです。

生活のなかで、おどろきを発見する眼、心
を養う。真実を凝視し、批判し、把握し、な
お夢や空想へまで発展する眼、心。私はこれ
を詩心といっていますが、数学や理科のよう
に、数字や法則で割切る学問のなかにも、神
秘や真実を感じとり、情熱を傾けることので
きる、その詩心こそ、芸術教育によって、
すべての人の心に育てられるものと思います。
さてやつと、実際の指導について語る段階
になりましたが、ごく簡単にいうならば、
「概念的でない絵を創り出させることで、生
活を育てる。空想画はその時にできる」
ということになります。

これはこうときめられたままを描くのでな
く、自分の誠意でみつけた素材ととりくみ、
そこから発展し、またはこわして組み立て、
新しく創り出していく絵。いわば私の描かそ
うとする絵の、そのすべてがもはや、空想画
であるらしいのです。(後略)

図のように下に四辺形の穴を穿ちます。た
だみれば何の苦もありません。見えますが
これがとても面白い役をつとめることです。
別に図示した六辺形の小定規を造らなけれ
ばなりません。さて、ここで要点を申しま
す、この小定規を上と下、左と右と穴の中
に入れ換えて使うときに、その両端の先が1・
2・3・4の点に突き当たるように、うまく削
ることです。

左右に摺動するとき、あまりガタがあつて
もいけません。何処かで渋くては尚更いけ
ませんから念入りに仕上げた動かして見るの
がよいのです。

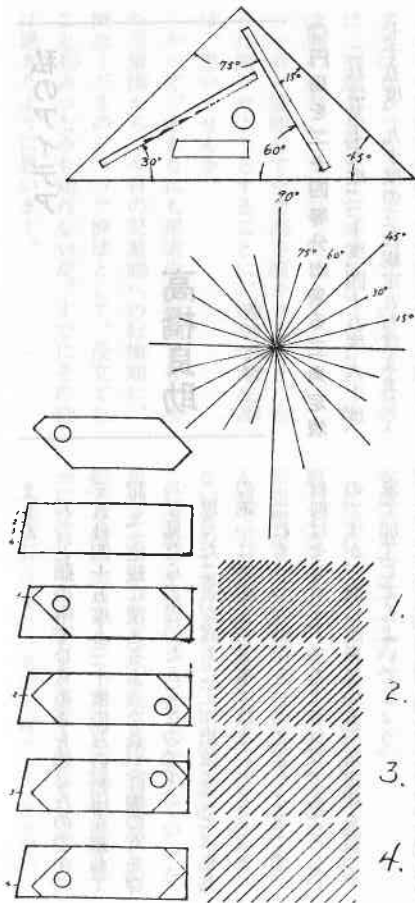
さてハツチングをするのは断面の図示法に
従つて各種の材質を線の種類で理解出来るよ
うにすることです。図面が青写真とかガリ
版で何枚も作られるときには、ゆつくり目分
量で等距離に引けばよいのです。しかし目分
量はどうしても綺麗に行きません。そこで
この定規が必要になるわけです。

先づT定規の上にこの三角定規を重ねて上
に並べます。四十五度の線は左にも右にも引
ける位置にするのがよいのです。断面のう
ち別の固体が入り混つているときにはハツチン
グの方向を取換えることになっていますから

直ちに右の斜辺を使えばよいのです。しかし能率のよいのは左の辺ですから、図を引くときには先づ左の辺を数多く使いたしませう。

さて、ハツチングの間隔ですが、縮尺の大小によつて、やはり適当な間隔を選びます。

三角定規の左の斜辺を使つて、線を一本引きましたら、中の小定規を右に動かして止めます。この小定規をしつかり止めておいて、こんどは三角定規を右へずらして小定規に軽く当てて止めます。そして線を引くのです。こうして三角定規と小定規は交互に間隔を規定する定規の役割をしながら、綺麗なハツチングを引いて行くでしょう。



そこでもし、もつと広い間隔にしたいと思つたならば、小定規を入れ換えるのです。突端が2-3-4に当るようにすれば、だんだんに広い間隔が出来ますから適當のところを選べばよいのです。

それにしても、一枚の小定規で四段に間隔を換えて引けるのなど面白いではありませんか、しかも一人二役を兼ねさせてこれを一枚の定規の中に仕掛けておきますと、なお便利でしょう。(札幌西高等学校)

描画指導に想う

和田芳郎

一九六三年二月二十五日
造形教育一、八〇〇字

終戦後、朝日国際学童美術展に初まり、北海道子ども美術展、こども道展、北海道学童水彩、クレパス展、NHK北海道予選展、私のお母さん展、拓殖銀行こども美術展、雪まつり児童画展等年中恒例のものから、臨時的なもの、或は講習先の校内展と性格や規模の大小を問はないで本道の児童画を審査する機会を与えられたので、その数からも概算二十万点位は見たのではなからうか。ここでは展覧会やコンクールの功罪を論ずる意図ではなくて疑問に残る点をのべてみたいと思う。

この間、造形教育の思潮や方法も急速に進み、国としても内外の交流がさかんで、一九五一年英国で開かれた「普通教育における美術の指導 (Aha Teaching Visual Arts in General Education)」の世界美術教育者会議に参加した室靖氏が帰朝してから創美の考え方も国内に滲透した。本道でも私たち造型連盟が今日まで、この道に尽した功績は大きかったと思う。

教師の豊かな発想から

池本良三

一九六六・四
「北海道造形のひろば」

教師の豊かな発想から生まれることば、子どもにとつて解りやすく魅力のあることばが図工科の授業を支える一つの大きな要因であると考えております。とくにデザイン学習において、条件の設定が重要なポイントになっていることは、改めて言うまでもないが、造形の要素・秩序・材料・用具・技法・機能などといった、条件の内容と考えられることがらを、どのようなことばによつて与えたら、より効果的なのか、私たちの、もつとも身近な問題の一つだと思います。私たちの学校では、「ならべる」というしごとに、大きなウエートをおいて、デザイン学習を進めておりますが、いわゆる感覚を高める分野で、色や形、材料などをならべるしごとを通して、リズムの快感、比例や調和の感覚についてよろこびを感じさせる学習を通して造形の秩序に気づかせ、みつけさせようとするものです。

私どもは描画指導の共通概念としてわかり

きつたほどの理解をもつてはいるはずである。

ところが今もって「概念的」描画は依然として量、質とも改善の様相もなく、著しい数で搬入されてくるのである。これはどうしたことによるものであろうか。AからBからCへと私どもの新しい発展と信ずるものが深まりと拡がりをもつていくものと自負せざるを得なかった。この過程に誤りと錯誤があったのかもしれない。或は造形教育の価値を指導過程のみに求むれば、作品の結果を論ずるには、なんの意味づけもなくはならないか。図工科は用具教科、道具教科、周辺教的存在に一般的に考えられ勝ちなものを、一部の指導者、一部のグループが一人よがりのりきみすぎで戦後十八年私どもと一般教師との格差はいっこうに縮まっていけないものと考えてよいのであろうか。仮にそうだとすれば、児童の指導よりも仲間づくりや、けいもうの方法に手ぬかりがあったのではなからうか。

むずかしい専門用語の乱費に自己陶醉することによつて自らの権威を保とうとする欺瞞はなかつたか。

造形教育論に花をさかせ、児童の描画は旧態依然の概念画では困つたことではあるま

そのことから、全学年にわたって「魚をたくさんならべましょう」という同じ条件を与え子どもの「ならべる感覚」の傾向などを調べたことがあります。その結果多くの資料を得ました。「ならべましょう」と与えただけでも、子どもたちは、それぞれ生活の中の集団の場面をとらえ、自分で条件を作り出しているのだということがわかりました。「えさをたべている」「先生と生徒」「駅の改札」「鼓笛隊のドリル演奏」などさまざまな場面が出てきました。したが、それらのことばの中に、私たちが授業でねらう要素が適確に含まれていることに気がつき、子どもが設定した条件のことばについて選択吟味し、指導の中のことばとして生かしております。ひろがりのリズムをねらうときは、「画面の外にえさが三つあります」とか、「えさはここです」といえば、集まりのリズムができるなどです。ふつう授業の場合には、条件が複合されて与える場合が多いと思いますが、低学年では、二つ以上の条件を一度に与えるよりは、時間をおいて与えた方が効果的でした。例えば、大・小・集まり・色彩のリズムをねらいとすれば、「三匹の魚がえさをたべているところ」——「子どもの魚にもたべさせよう」「押しあわないで」——「ど

魚の子どもかわかるように色を考えよう」などと進めていくと、かなりの条件にも無理なく答えてくれ、最後まで新鮮な意欲をもつてしごとをします。又私たちは、切る・はるといふしごとを沢山とり入れております。納得のいくまで形や色をおきかえられるということは、造形思考を深めていく上にも、材質感を養ない計画性をもつたしごとを習慣化させる上にも大切なことだと思えます。

高学年の描画指導のポイント

〈勇弘那・追分小学校〉

佐藤吉五郎

一九六八年七月/教室の窓

①素地を作っておくこと

高学年になると物の見方が知的になってくる。したがって大方の子どもは形の正しさを客観的に見ることが出来るように描かれていた作品をよい絵だと思っている。よい絵、悪い絵の区別が出来ているのです。しかし自分の表現技術が伴わないので劣等感を持ったりして絵がきらいになるのです。他方上手だといわれている子どもはややもすれば概念的

表面描写におちいり、そのパターンからぬけ出したいいきいきした表現が困難になってくるのです。そこで私たちは「自分の心に感じたことを自分なりの技術で正直に描き進めればよい。」ことや「描こうとすることをしみじみ味わう。」場面や「最後まで正直にがんばる努力」の心をあらゆる方向で与えてやらなければならぬのです。しかし「創造的」「自主的」という態度はそう易々と身につくものではなく創造的作品を生む過程において少しずつ身につくものなのです。

②与え方の工夫

態度ができ上っていない子どもにはできるだけ強烈な刺激をあたえ心を動かし表現の意欲をより立てるに充分な題材を与えなくてはならないのです。

私たちは口で伝達するだけではいけないのです。「見せて」「聞かせて」「いじらせて」などからだを働かせる手段を選ばべきなのです。ガンガンなる工場の音を聞かせその場所を見せ、面白くてたまらない話を聞かせ、強烈なリズムを味わせ、ものすごい量の物を見せあかりを強烈にあて、などの場面設定が大切なのです。しかしながら高学年では想像は伸

々自由に描けないものです。それで心の中でスケッチする方法はあらかじめ場所をスケッチしておく方法そして製作の時はそれを見ないで描く方法をとりあげたらよいのではないのでしょうか。

③よく観察し正しく描くということ

高学年では観察表現は大きな活動分野で進歩も高度になってきます。しかし「対象に似るほどよい」とは少しちがうのであって、見えるものに支配されない自由性、概念的画像を直接見るることによってこわし、なまなましい対象から発見する態度を養うことがねらいなのです。ですから子どもの見方、感じ方を重視することになるのです。

④材料用具の与え方

材料用具は出来るだけ豊富にがモットーです。このことは表現のマンネリ化、パターン化を防ぐ意味と同時に表現の中をひろげることにもなるのです。水彩絵具、パス、クレヨン、マジック、ボールペン、コンテ、厚紙色紙、板など新しい材料はほとんどん使用させてみることです。そうしてこの時期には仲間で作る作品など特に意欲的になれる題材であり用具材料の多面的利用の出来るよい題材ではないかと思つてます。

〈札幌・幌南小学校〉

授業のくふう

早弓弘行

一九七五/東京書籍
「絵画指導の実際」

はじめが大切

授業の成否は、まず

1 題材は子どもの興味の方にびたと照準が合っている。

2 教師が、つまずきの予想をしつかりと持っている。

3 事前の予告から、発想・製作の段階へとうまく意欲をつなげていく。

この三点にかかっているようです。子どもが学習にはいるまえに持っている「小さな期待」を、大きくふくらませるか、潰してしまふかは、教師のやりかたしだいでしょう。なるでしょう。考えれば、教師という職業はこわいものですなあ。

教材へひきこむ

あらかじめ、予告によって、「やってみたく

てたまらない。」雰囲気をつくっておきましょう。「意欲の高め方」のところでもわしく述べますが、子ども自身が、ばく然としたイメージをもって学習にのぞんでいることがかぎとなります。この「小さな期待」を土台にして教師は最良の演出家でなければなりません。まず、子どもから目を離さないようにしましょう。教師のひとことひとことにどう反応し、教室の雰囲気「熱くなってきているのか、冷めてきているのか」を確的に判断し、場合によってはやり方を変更してすすめましょう。

教材へのひきこみ方は風揚げと同じです。糸の点検・風の向きを調べて、「風を見ながら」揚げるのです。前を向いてやみくもに走ってはけません。あるていど揚がったら、少しずつ糸を伸ばしていくのです。途中でおっこちそうになることがあったら、チョイチョいと糸を加減してやると、また元氣よく揚がるでしょう。ただし、教師の場合は、何十もの風を同時に揚げていますから本当にたいへんです。

先生も楽しんでやりましょう

子どもの顔をひとりひとり思いうかべて、

その子にあったような教材を準備し、「これならきつと喜んで取りくむ。」と確信がもてたら教師自身が楽しくなります。先生の不安やなきげんは、おそろしいほどに子どもに伝わるものです。導入はテクニクではないといわれるわけはここにあるのでしょうか。

私は、これまで、ずい分多くの失敗を重ねました。その大半が、教材をろくに調べもしないで授業にのぞんだ時です。子どもがなんとかしてくるだろう。なんて甘えがあった時です。そんな時は、たいてい授業の見通しをもっていない。こんな絵をかいてほしいなあという願いがとてもしないです。

反対に、授業研究の時などもやはりいけません。どうも私は意識過剰になっているようです。言わないでいいことを言ってしまったります。子どもが言わなければならぬことを先どりしています。いわば、先導車が子どもの列から離れて、エッサエッサどこかへ行ってしまったようなものです。気づいたらだめだし、怠けちゃもつとだめなんです。

目あてのきめかた

何のためにこの絵をかいているのかという目標は、教師も子どもも共に強く意識しなけ

目標をみんなに分らせる

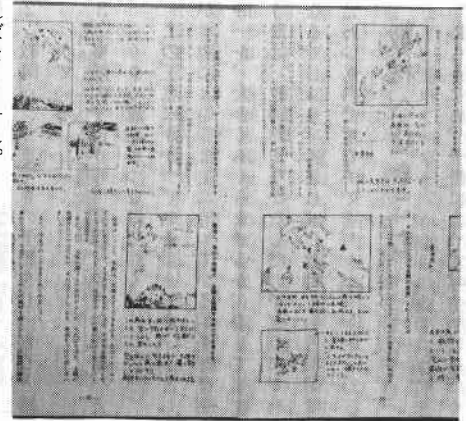
目あてをきちんと書いて示すことは、実は教師自身のためでもあります。いいか、忘れるなよ。」と自分に言い聞かせるのです。そんなわけで、板書にはちよいとたくふうをするといひでしよう。一例をあげれば、

- 目あては、黄色のチョークで大きくかく
- 目あてを具体化する手だては、白チョークで一段下げて小さくかく。
- クラスのやくそく(図工以外のことで)があれば、いつでも最後に赤チョークでかく。

というように、いつでも「定型化」しておくのです。もちろん、オーバーヘッドや模造紙や、小黒板などでもいいでしょう。これも場面をきめて、どんな時に使うのかをきめておく(定型化)のです。授業研究だというので、あまり変わったことをすると、子どもはびっくりして注意がそれてしまいます。小さな習慣化は大切なことです。

リズムミカルな授業

美人の先生の、リズムミカルな授業を拝見するほど楽しいはありません。教室全体が



ればなりません。

ところが、たいていの場合、この「目あて」よりも「題材」をきめることの方が先になっ

てしまうようです。「あしたの絵は、何かいたらいいかなあ。」「そうだなあ。しばらく風景をかかせてないから……何か教科書にのってないかなあ?」なんていう教材研究?から

「あ、あつた、あつた。これ、いきましょう。」「あ、それでいきましょう。ところで……目標はと……。」

このやり方ですと、いかにもいきあたりば

しつとりと落ちついていて、先生も子どもも別に無理をしているようすもない。必要な時に、必要なきめかたがあつて、子どもが場面に応じてちゃんと行動している。そんな授業が好きです。いい授業なさる先生は、みんな美人に見える。きつと、その先生の人が、内からじわじわと授業にじみ出ているからでしょう。

ところで、図工科の場合、授業はたいてい二時間つづきです。よほどおもしろいことではないかぎり、低学年の時はなおさらのこと持続するのは難しいことです。

そこで、この間にいくつかの節をつくること

- 教師の声の抑揚で、この時間の大切なところがわかる。
- 教師が教える部分
- 子どもが活動する部分
- 励ましたり、ほめたり、認めてあげたりする部分

●修正したり、相互批評をする部分

●全神経をこめて、作品に没入する部分

●次時へつなげる部分

「あ、あつた、あつた。これ、いきましょう。」
「あ、それでいきましょう。ところで……目標はと……。」
このやり方ですと、いかにもいきあたりばり

つたりで、目標が学年でダブつたり、ステップのあげ方に無理があつたりします。やはり系統性をもたせて、年令に応じたとりあげ方をする必要があります。ほんとうは、この目標に「手だて」をくつつけておきますと、ステップのあげ方がよくわかり、職員意志統一もよくなされるでしょう。

もう一つ大切なことは、「目あては思いきつて少なくすることです。一時間に一つか二つと考えてもいいでしょう。そのかわり、その目あては、最も有効なものでなければなりません。

次に気をつけたいことは、目あての具体性です。「伸び伸びとかかせる。」大きく表現する。「観察力を高める。」なんていうのはいかにもばく然として、よくわかりません。もしそのことが目標なら、もうひとつ枝わかれした目標をきめておくといひのです。たとえば

- 用紙の上下にくつつくくらいに思いきつてかくことができる。
- 器物をよく見て、部品のひとつひとつも見落とさずにかける。

というように。難しいことばでなく、自分のことはで記録しておきましょう。指導案といひのは、自分の計画なのですから……。

一年生の教室で……
「きょうはね、先週言っておいた『雪はねをする車』をかくよ。いいね。どうですか。車のようすを見てきてくれた?」
教室へはいりなるとどうも形勢不利の空気を察知して、ヒゲづらに似合わぬネコナデ声で聞いたのですが……
「いや、見なかった。」
「だってき、そんな車来なかったよ、ゼーセン。」
「だれか一人くらい見ただろ。だれか……」
こうなりや、ワラにもすがりたい想いですな。「だれか、だれか?」の絶叫にもちいともこたえてくれない。ま、つめたいもんです。子どもというのは……。これが中学生くらいだと、先生のピンチを察して「あ、見ました見ました。」なんて言ってくるんじゃないか

PART 3

創造の山脈



と思うのですが。

絵の病院というのを開設しました。院長先生おいて、子どもの症状を診断し、親の話と総合して、ちよつとした絵の病気をなおしてやりたい、そんな気もちからです。この試み、実は子どもの絵を通して子どもを理解してきたいと思つたのですが、親の訴えを聞いてとても勉強になりました。つまり、子どもの絵に現われるさまざまな症状は（たとえば、粗雑・概念的・自信がない・想が貧しいなど）決して単独では現われぬ、子どもの生活そのものが「絵とおなじだ。」ということです。（後略）

（岩見沢・南小）



研究図書「色と形の認識と創造」の発刊

札幌研中学美術研究部は、昭和42年より、「人間形成の過程における色と形の認識と創造」を研究主題として、共同研究を進めてきた。これは、その後9ヶ年の長期にわたつて継続されたが、その内容と成果を見おし、最終的に集約するために、研究図書として編集研究部に組織された情報センター委員会に当研究部に組織された情報センター委員会によって検討され、50年秋の全体集会上に提案され部員の賛同が得られた。

●52年8月の「全国造形教育研究大会」を、この実践研究の発表の場と考え、そこではこれが授業や提言の背骨となるような一貫性を持つたものでなければならぬこと。●その意味からも、単に経過を追うだけの経要的なものではなく、今後の研究の発展や方法を支えるものでなければならぬことなどである。

このようにして、以来、組織の機能の全てを注いで、実質2ヶ月に及ぶ編集作業が進められたのである。これは文字通り試行錯誤の積み重ねであつたと言える。

研究推進委員会で練られ、提示された方向や方法が、常任委員会の検討を経て地区研究会におろされ、地区毎の授業研究、実践、検

証が重ねられた。その成果が次々と集約されていったが、編集構想作業の中で、研究の全体の流れからみつめた時に、また新たな疑問にぶつかったり、解決の手がかりが得られることもあり、それがさらに地区研究で追求された。編集にはずさわつた委員はもとより、原稿執筆にあつた地区研究委員も含めて、そこに注ぎこまれた時間と労力、さらに思考の集積は筆舌に尽くしがたい。

こうして、10ヶ年にわたつて取りくんできた、長期継続研究の最終的な集約として、研究図書「色と形の認識と創造」

美術科の教科性の確立と

「ゆとり」への志向

が、52年7月、明治図書出版株式会社より発刊された。初版千五百部、A5版、176頁）

内容として盛り込まれた項目は、

- ◎序論、美術科における今日の課題の認識と創造
- ◎人間形成の過程における色と形の認識と創造
- ◎実践的学力としての「高めたい力」とそれを伸ばす授業の展開。
- ◎美術科の学習と施設設備
- ◎教育課程の改訂と美術科と論じられている。（文責 佐野千尋）